

2024 年度
学修要項(シラバス Syllabus)

ICM 国際メディカル専門学校

鍼灸学科 (昼間部)

鍼灸学科(昼間部)

別表2-2-1

科目		単位数	総時間数				令和4年度生より適用学年別				実務経験のある教員等 による授業科目 2024年度 単位数	
			講義	演習	実技・実習	計	1年	2年	3年	計		
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活(14)	心理学	2	36		36	36			36		
		マーケティング	2	36		36		36		36		
		英語	2	36		36	36			36		
		中国語	2	36		36	36			36		
		スタディスキルズ	1	18		18	18			18		
		コミュニケーション技法	2	36		36	36			36		
		情報処理 I	2	36		36	36			36		
		情報処理 II	1	18		18	18			18		
		計	14	252	0	0	252	216	36	0	252	
専門基礎分野	人体の構造と機能(12)	解剖学 I -A	2	36		36	36			36		
		解剖学 I -B	2	36		36	36			36		
		解剖学 I -C	2	36		36	36			36		
		解剖学 II -A	2	36		36		36		36		
		解剖学 II -B	2	36		36		36		36		
		生理学 I -A	2	36		36	36			36		
		生理学 I -B	2	36		36	36			36		
		生理学 I -C	2	36		36	36			36		
		生理学 II -A	2	36		36		36		36		
		生理学 II -B	2	36		36		36		36		
		運動学	1	16		16		16		16		
		疾病の成り立ち その予防及び 回復の促進(12)	病理学概論	2	36		36		36		36	
	臨床医学総論		4	72		72		72		72		
	臨床医学各論 I		4	72		72		72		72		
	臨床医学各論 II		3	54		54		54		54		
	臨床医学各論 III		2	36		36			36	36		
	リハビリテーション医学		3	48		48		48		48		
	保健医療福祉と はり及びきゅうの理念 (3)	公衆衛生学	4	72		72	72			72		
		保健医療福祉及び関連法規	2	36		36			36	36		
		医療概論	1	22		22	22			22		
	計	46	824	0	0	824	310	442	72	824		
基礎はりきゅう学 (9)	経絡経穴概論 I	経絡経穴概論 I	4	72		72	72			72	○	4
		経絡経穴概論 II	2	36		36		36		36	○	2
		東洋医学概論 I	4	72		72	72			72	○	4
		東洋医学概論 II	2	36		36		36		36	○	2
	臨床はりきゅう学 (13)	人体機能構造応用学 I	2	36		36			36	36	○	2
		人体機能構造応用学 II	2	36		36			36	36	○	2
		臨床応用学 I	2	36		36			36	36	○	2
		臨床応用学 II	2	36		36			36	36	○	2
		臨床応用学 III	2	36		36			36	36	○	2
		伝統臨床応用学	2	36		36		36		36	○	2
	社会はりきゅう学 (2)	東洋医学臨床論	3	54		54			54	54	○	3
		伝統医学史	1	16		16			16	16	○	1
		はりきゅう理論	3	54		54		54		54	○	3
	計	31	556	0	0	556	144	162	250	556		31
	総合領域(10)	伝統応用学 I	2	36		36			36	36	○	2
伝統応用学 II		2	36		36			36	36	○	2	
鍼灸総合医学 I		2	36		36			36	36	○	2	
鍼灸総合医学 II		2	34		34			34	34	○	2	
総合応用 I		2	36		36			36	36	○	2	
総合応用 II		2	36		36			36	36	○	2	
総合応用 III		1	18		18			18	18	○	1	
はりきゅう応用学 I		2	36		36			36	36	○	2	
はりきゅう応用学 II		2	36		36			36	36	○	2	
計		17	304	0	0	304	0	0	304	304		17
実習(15)	鍼灸実技 I -A	2			72	72	72			72	○	2
	鍼灸実技 I -B	1			36	36	36			36	○	1
	鍼灸実技 II -A	2			72			72		72	○	2
	鍼灸実技 II -B	1			36	36		36		36	○	1
	経絡経穴実技	1			36	36	36			36	○	1
	体表解剖基礎実技	1			36	36	36			36	○	1
	美容スポーツ各種鍼灸	1			36	36			36	36	○	1
	総合実技	1			36	36			36	36	○	1
	臨床応用実技	2			72	72		72		72	○	2
	伝統鍼灸実技 I	1			36	36		36		36	○	1
	伝統鍼灸実技 II	1			36	36		36		36	○	1
	臨床実習前実技	1			36	36		36		36	○	1
	計	15	0	0	540	540	180	180	180	540		15
臨床実習(4)	臨床基礎実習 I	1			45	45	45			45	○	1
	臨床基礎実習 II	1			45	45		45		45	○	1
	臨床実習	2			90	90		90		90	○	2
計	4	0	0	180	180	45	45	90	180		4	
単位数・時間数合計		127	1,936	0	720	2,656	895	865	896	2,656	37	67
その 分野の 他の	選択実習 (いずれか1科目選択)	独立開業特論										
		美容業界特論	1			30			30			
		スポーツ業界特論										
厚生労働省以外単位数・時間数合計		1	0	0	30	0	0	30	0	30		
総合合計		128	1,936	0	750	2,656	895	895	896	2,686		

科目名	心理学		
担当教員	上田 純平	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	1. 面接の意義を理解する 2. 身体症状について臨床心理学的に必要な知識を身につける 3. 面接についての知識を身につける 4. 事例検討について理解する		
科目の目標	臨床心理面接の基礎を学び、患者さんの話の聞き方、見立ての立て方、相談に患者さんを理解するために必要な面接の行い方を身につけることを目標とする。		
学習の到達目標	1. 面接の意義を理解する 2. 身体症状について臨床心理学的に必要な知識を身につける 3. 面接についての知識を身につける 4. 事例検討について理解する		
学習方法・学習上の注意	テキストに沿って、発表形式で授業をすすめる。 各自、担当箇所(初回の授業時に決定)については、特によく予習し準備すること。		
関連科目			
持参物	テキスト、ノート等		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	心理・身体的症状と症例①		
3	心理・身体的症状と症例②		
4	方法としての面接		
5	面接をどう始めるか		
6	「わかる」ということ		
7	不登校児童の臨床事例		
8	面接の進め方		
9	「ストーリー」を読む		
10	見立て		
11	家族の問題		
12	劇としての面接		
13	面接とケース・スタディ		
14	子どもの臨床事例		
15	身体症状を訴える女性の臨床事例		
16	身体症状を訴えるアスリートの臨床事例		
17	面接のロールプレイ		
18	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験60%、発表内容20%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新訂 方法としての面接 臨床家のために』 土居健郎著 医学書院		
参考文献			

科目名	マーケティング		
担当教員	須佐修一	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	マーケティングの概念基礎知識を学び、国内外の企業がマーケティングの理論を実務にどう活用して、その業績をいかに高めていったか。		
科目の目標	マーケティングとはなにか。市場分析、商品開発、販売促進、PR、ブランディング、Webマーケティングの基礎知識を習得する。		
学習の到達目標	誰もが知っている企業や生活に欠かせない商品を通じてマーケティングを学習する。		
学習方法・学習上の注意	マーケティングの理論を実務にどう活用し、その業績をいかに高めていったのか。		
関連科目			
持参物			
講義計画	講義内容		
1	第1章 マーケティングとはなにか(事例研究)		
2	第2章 市場分析		
3	自社分析		
4	第3章 マーケティングの基本戦略		
5	"		
6	第4章 新製品・新サービスを開発するマーケティング		
7	遊びの要素を取り入れてみよう		
8	サービスの特徴を覚えておこう		
9	第5章 今ある商品を売るマーケティング		
10	"		
11	第6章 ブランド戦略のためのマーケティング		
12	ポートフォリオ戦略のためのマーケティング		
13	第7章 Webマーケティングの基礎知識		
14	"		
15	治療院開業の豆知識		
16	"		
17	SDGsとマーケティング		
18	評価試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験70%、学習意欲・出席状況30% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	図解&事例で学ぶマーケティングの教科書		
参考文献	コトラーのマーケティング3.0 コトラーのマーケティング入門		

科目名	英語		
担当教員	米田 春美	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	鍼灸治療を英語で行うための基礎英語表現と語彙を学ぶ。		
科目の目標	外国人が鍼灸治療を受けに来た際、また、海外で鍼灸治療を行う際に対応できる英語力を養う。		
学習の到達目標	患者の訴えを理解するための身体や症状に関する語彙、また、施術や指導する際に必要な英語表現を口頭で言える力を身に着ける。		
学習方法・学習上の注意	積極的に英語会話訓練に参加する姿勢が求められる。また、語彙を蓄えるためのカード作成及び提出を怠らない。		
関連科目			
持参物	テキストとして使用する資料、語彙学習用のカード		
講義計画	講義内容		
1	語彙①人体各部の名称:外部器官 会話①電話での予約		
2	語彙②人体各部の名称:筋骨格系 会話②初診		
3	語彙③人体各部の名称:内部器官(1) 会話③問診		
4	語彙④人体各部の名称:内部器官(2) 会話④治療を行いながらの会話や指示(1)		
5	語彙⑤診療科名 会話⑤治療を行いながらの会話や指示(2)		
6	語彙⑥症状:風邪、インフルエンザ、消化器系 会話⑥灸治療の会話		
7	語彙⑦症状:その他の症状と兆候 会話⑦問診用の様々な表現(1)		
8	語彙⑧主な病気 会話⑧問診用の様々な表現(2)		
9	語彙⑨産婦人科系病気 会話⑨鍼灸治療に使う基本動詞のまとめ(1)		
10	語彙⑩外傷と救急、会話⑩鍼灸治療に使う基本動詞のまとめ(2)		
11	語彙⑪産婦人科系病気 会話⑪よくある質問と答え方		
12	語彙⑫鍼灸による治療効果がWHOに承認されている疾患 予診票の英語表現(1)		
13	予診票の英語表現(2)		
14	筆記試験および口頭試験対策総復習(1)		
15	筆記試験および口頭試験対策総復習(2)		
16	口頭試験実施		
17	口頭試験実施		
18	筆記試験実施		
成績評価の方法と基準	口頭試験および筆記試験の結果を合わせた総合評価。語彙カード未提出の場合は減点。		
使用テキスト	語彙、会話表現、英語対訳付問診票によって構成される資料		
参考文献	Easy Nursing English(南山堂) クリスティンのやさしい看護英会話(医学書院)		

科目名	中国語		
担当教員	孫犁冰	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	中国語とは、日本語と同じく漢字を用いる中国語を会話で楽しむ授業である。 基本的な文法項目と発音を身につけ、中国語でのコミュニケーション能力を養う。 近年、中国は産業・経済各方面において著しい成長が見られ、国際社会における存在感が高まりつつある。 日本に近いようで遠い中国を知るためには、この授業はその第一歩である。		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の発音記号である「ピンイン」を正確に読むことができる。 ・単語、構文、文法について理解し、応用できる。 ・簡単な日常会話を中国語で話すことができる。 ・辞書を引きながら中国語の文章を日本語に訳することができる。 		
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会話ができるように復習やレポート課題に積極的に取り組むことができる。 ・中国語を学ぶことによって、国際視野が広がり、考える力をより一層高めることができる。 		
学習方法・学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、音読を重視する。 ・授業内容は録音、録画可。 		
関連科目			
持参物	黄色・水色・緑色のマーカー		
講義計画	講義内容		
1	ウォーミングアップ：中国語の楽学法		
2	第1課 はじめまして(基本文型6、新出語47)		
3	第2課 ありがとう(基本文型4、新出語34)		
4	第3課 地図を買う(基本文型6、新出語28)		
5	第4課 交流(基本文型7、新出語31)		
6	第5課 お誕生日おめでとう(基本文型7、新出語37)		
7	第6課 中国語の学習が大好き(基本文型5、新出語30)		
8	第7課 私の一日(基本文型7、新出語31)		
9	第8課 家族写真(基本文型7、新出語34)		
10	第9課 私の趣味(基本文型10、新出語32)		
11	第10課 天気を語る(基本文型7、新出語32)		
12	第11課 銀行にて(基本文型8、新出語33)		
13	第12課 飛行機に乗る(基本文型15、新出語30)		
14	第13課 道を尋ねる(基本文型7、新出語33)		
15	第14課 タクシーに乗る(基本文型9、新出語32)		
16	第25課 診察(基本文型10、新出語30)		
17	総復習		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：期末試験50%、小テスト30%、学習意欲(授業態度)20% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『楽学中国語』、孫犁冰著、新潟日報事業社、2021年9月、定価：1,980円(税込)(ダウンロード音声あり)		
参考文献	特になし		

科目名	スタディスキルズ		
担当教員	山崎 史恵	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	18時間
科目の概要	今後本学で授業や実習、試験勉強等を進めていくうえで、知っておくべき勉強法についての知識や身につけておくべき基礎的な能力を養う。また試験勉強等に積極的かつ自主的に取り組むためのモチベーションの維持や、効率的な暗記法などにも触れる。□		
科目の目標	本授業で学んだことを活かしながら、各専門科目を能動的に受講できるようになること(聴く、読む、書く、考える、疑問を持つ)。また、自宅学習(復習)や試験勉強においては積極的かつ計画的に、工夫して課題に取り組めるようになること(調べる、整理する、覚える)。		
学習の到達目標	スタディスキルとはどのようなスキルかを具体的に説明できる 自分がどの程度スタディスキルを身につけているか現状を把握し、課題を見つける 実際の授業や自習、試験勉強などのシーンに関連づけて各スキルを実践できる		
学習方法・学習上の注意	本授業で学んだことを積極的に日々の授業や自宅学習に取り入れ、実践すること		
関連科目			
持参物			
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション スタディスキルとは？		
2	スタディスキルの現状—自己分析—		
3	記憶(記憶の仕組み、復習の意義)		
4	記憶(暗記法、定着のための工夫)		
5	学習(条件づけ、習慣を身につける)		
6	学習(行動修正、行動変容)		
7	思考(情報を調べる、整理する)		
8	思考(問題解決、柔軟な考え方)		
9	まとめ・振り返り		
成績評価の方法と基準	評価方法:授業小レポート60%, 学習意欲・取り組み(出席状況含む)40% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	適宜プリントを配布		
参考文献			

科目名	コミュニケーション技法		
担当教員	上田 純平	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	1. コミュニケーションの基本となる「聞く」ことについて、基礎を学ぶ 2. コミュニケーションに必要な「話す」ことについて学ぶ 3. 仕事の様々な場面にふさわしいコミュニケーションについて学ぶ		
科目の目標	コミュニケーションのスキルは、社会人として必要な能力である。様々な場面を想定したコミュニケーションの知識を学び、実践力を身につけることを目標とする。		
学習の到達目標	1. コミュニケーションの基本となる聞く力を養う 2. コミュニケーションに必要な話す力を養う 3. 仕事の様々な場面にふさわしいコミュニケーションを理解する		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布する。テキストとプリントに沿って授業を行う。 また、授業内で検定に向けた練習問題も行う。授業後、各自で復習すること。		
関連科目			
持参物	テキスト、ノート等		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2	コミュニケーションの導入		
3	コミュニケーションを考える		
4	聞く力 目的に則して聴く		
5	聞く力 傾聴・質問する		
6	話す力 目的を意識する		
7	話す力 話を組み立てる		
8	話す力 ことばを選び抜く		
9	話す力 表現・伝達する		
10	来客対応・電話対応		
11	アポイントメント・訪問・挨拶		
12	情報共有の重要性		
13	チーム・コミュニケーション		
14	接客・営業・クレーム対応		
15	会議・取材・ヒアリング・面接		
16	練習問題・復習		
17	試験		
18	まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法：期末試験70%、授業内レポート10%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『コミュニケーション検定初級 公式ガイドブック&問題集』 (サーティファイ コミュニケーション能力認定委員会編)		
参考文献			

科目名	情報処理 I		
担当教員	高井 和美	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	Microsoft Word&Excel、及びWindowsの操作方法を身につける		
科目の目標	WordとExcelの操作が自分の利用シーンに合わせて、不自由なくできるようになること。または、わからないことを自分なりに調べて知識を増やすことができるようになること。及び、メールの作成方法を身につけること。		
学習の到達目標	Word…インデントやタブを使って見栄えの良い定型文が作成できること。及び、図形や表を挿入して分かりやすい文章作成ができる。 Excel…計算式を挿入して分かりやすい表を作成できる。データベースを利用できる。便利な関数が使えらること。		
学習方法・学習上の注意	配布したプリントを基に授業を進める。パソコンを操作する時間を多く盛り込んであるので、説明をよく聞いて積極的に授業に取り組んでほしい。また、わからないことはそのままにしないで、可能な限り解決に努めることが望ましい。		
関連科目	情報処理 II		
持参物	パソコン、毎回配るプリント(全回分)、USBメモリ、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1	授業内容の説明、メール送受信の練習、入力スピードを上げる練習		
2	Word基礎一画面の名称、ファンクションキー、ショートカットキーの使い方、入力、保存など		
3	Word—文字書式の設定		
4	Word—段落書式の設定(タブ、インデント)		
5	Word—図形の挿入について		
6	Word—オリジナルカードの作成		
7	Word—印刷設定(ヘッダー、フッター)、及び表の挿入		
8	Word—確認問題の実施		
9	Excel—基本的な表の入力、簡単な書式を設定する		
10	Excel—数式の入力(四則演算)		
11	Excel—関数の利用、基礎編(SUM,AVERAGE,RANKなど)		
12	Excel—関数の利用 応用編(IF,VLOOKUPなど)		
13	Excel—様々なグラフの作成		
14	Excel—データベース機能を使う(抽出、並べ替えなど)		
15	Excel—セルの書式設定ダイアログボックスの詳細		
16	Excel—ピボットテーブルの作成		
17	Excel—ブックの印刷について		
18	Excel—確認問題の実施		
成績評価の方法と基準	出席状況(学校の基準による)及び授業態度(真剣に取り組んでいるか)20%、提出物(有無、内容)30%、Word&Excelそれぞれ科目終了時の確認問題(授業の内容が理解できているか)50%		
使用テキスト	講師作成によるプリント		
参考文献	各種テキスト、問題集等		

科目名	情報処理Ⅱ		
担当教員	高井 和美	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	18時間
科目の概要	Microsoft PowerPoint及びWindowsの操作方法を身につける		
科目の目標	目的に応じて、わかりやすいプレゼンテーションを作成し、それをもとに発表をすること。		
学習の到達目標	自分の伝えたい内容を視覚的にわかりやすくまとめたスライドの作成ができる。また、それをもとに皆の前で発表ができる。		
学習方法・学習上の注意	配布したプリントを基に授業を進める。 自分の考えが聴衆に伝わりやすいように工夫して、スライドの作成と発表の仕方について考える。		
関連科目	情報処理Ⅰ		
持参物	パソコン、毎回配るプリント(全回分)、USBメモリ、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1	授業内容の説明、添付ファイル付きのメール送信の練習。入力スピードを上げる練習		
2	Power Point—スライド作成の基礎、入力方法		
3	Power Point—スライドに表やグラフを追加する		
4	Power Point—スライドに図形を挿入する		
5	Power Point—アニメーションと画面切り替えの設定		
6	Power Point—練習問題		
7	Power Point—各自オリジナルプレゼンテーションの作成		
8	Power Point—各自作成したプレゼンテーションを用いて発表する		
9	Power Point—まとめ		
成績評価の方法と基準	出席状況(学校の基準による)及び授業態度(真剣に取り組んでいるか)20%、提出物(有無、内容)30%、プレゼンテーションの発表(作成したスライドに指定の内容が盛り込んであるか。聴衆が聞きやすい声量であるか)50%		
使用テキスト	講師作成によるプリント		
参考文献	各種テキスト、問題集等		

科目名	解剖学 I - A		
担当教員	小林 一広	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	解剖学は医療の基礎となる重要な学問である。医療を携わる上で、人体を構成する諸器官の形態と構造、それらの機能を理解することは必須である。 1.人体を構成する諸器官の形態や構造について学ぶ。 2.更に人体を総合的に理解するために、形態や構造と機能との関連性について学ぶ。		
科目の目標	人体を総合的に理解するために、人体を構成する諸器官の形態と構造と機能との関連知識を身につける。		
学習の到達目標	1. 人体を構成する諸器官について理解する。 2. 人体を構成する諸器官の形態について理解する。 3. 人体を構成する諸器官の構造について理解する。 4. 人体を構成する諸器官の形態や構造と機能との関連性について理解する。		
学習方法・学習上の注意	次回の講義について予習し、毎回講義をしっかり受講し、また講義後の復習も励行し、理解しておくこと。		
関連科目	生理学		
持参物	教科書(解剖学)、配布プリント、ノート		
講義計画	講義内容		
1	消化器全般の構成について理解する。		
2	消化管(口腔)の構造と機能を理解する。		
3	消化管(咽頭・食道)の構造と機能を理解する。		
4	消化管(胃)の構造と機能を理解する。		
5	消化管(小腸)の構造と機能を理解する。		
6	消化管(大腸)の構造と機能を理解する。		
7	消化器(肝臓)の構造と機能を理解する。		
8	消化器(膵臓・腹膜)の構造と機能を理解する。		
9	泌尿器(腎臓)の構造と機能を理解する。		
10	泌尿器(尿管・膀胱・尿道)の構造と機能を理解する。		
11	男性生殖器(精巣・精路)の構造と機能を理解する。		
12	男性生殖器(付属腺・外陰部)の構造と機能を理解する。		
13	女性生殖器(卵巣・卵管・子宮)の構造と機能を理解する。		
14	女性生殖器(陰・付属腺・外陰部)の構造と機能を説明する。性周期と分泌するホルモンを理解する。		
15	呼吸器(鼻腔)の構造と機能を理解する。		
16	呼吸器(咽頭・喉頭・気管・気管支)の構造と機能を理解する。		
17	呼吸器(肺・胸膜・縦隔)の構造と機能を理解する。		
18	定期試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:定期試験100% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学(医歯薬出版株式会社)		
参考文献			

科目名	解剖学 I - B		
担当教員	五十嵐 力	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	<p>人体の個々の仕組みを理解し、それぞれの関連性を系統的に学び、専門医学学習上の基礎を築く。 解剖学は、基礎医学の分野でも重要な位置を占めるので、解剖学の知識が乏しければ、経絡経穴・鍼灸実技等関連科目の学習が困難度を増す。 まとめとして、解剖実習を行い、標本にて確認する。 これらの点を踏まえて、主に各部の名称(と機能)を学習し、今後の学習のための基礎を作る。</p>		
科目の目標	<p>体幹・体肢の骨の名称、形状、位置関係、またそれらの機能などを知ること、人体における運動の仕組みを理解するうえで必要な骨格系を学ぶ。</p>		
学習の到達目標	<p>人体の骨の位置関係や機能を知り、その知識を鍼灸治療における病態把握の一助として、また取穴の際の指標として活用できる。</p>		
学習方法・学習上の注意	<p>教科書、配布資料の整理、スケッチ描画 鍼灸臨床に応用するという学習意識をたえずもって取り組む。</p>		
関連科目	<p>①経絡経穴概論 経穴の部位を理解するためには、指標となる骨(や筋)の位置関係を知っておく必要がある。 ②各種実技 目標とする筋に施術するためには、筋の起始・停止や正確な位置を把握しておく必要がある。</p>		
持参物	<p>配布プリント、教科書、3色以上の蛍光ペン</p>		
講義計画	<p>講義内容</p>		
1,2	<p>解剖学用語</p>		
3~5	<p>解剖学基礎(細胞・組織)</p>		
6,7	<p>神経系と循環器系</p>		
8,9	<p>運動器系 総論</p>		
10,11	<p>脊柱と胸郭</p>		
12,13	<p>上肢帯と自由上肢の骨</p>		
14,15	<p>下肢帯と自由下肢の骨</p>		
16,17	<p>頭蓋骨</p>		
18	<p>期末試験及び解説</p>		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法:小テストと期末試験80%、学習意欲(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	<p>『解剖学 第2版』:東洋療法学校協会</p>		
参考文献	<p>『ネッター 解剖学アトラス 第4版』:南山堂 『グレイ解剖学アトラス』:エルゼビア・ジャパン株式会社 『イラスト解剖学 第5版』:中外医学社 『解剖アトラス 第3版』:文光堂 その他、多数</p>		

科目名	解剖学 I - C		
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	筋、神経を系統的に学び、専門医学の学習上の基礎を築く。		
科目の目標	頭部・体幹・四肢の筋肉や神経の名称、位置などを知る。		
学習の到達目標	人体の筋肉・神経の位置関係や機能を知る。		
学習方法・学習上の注意	頭の中でイメージをすること。		
関連科目	生理学		
持参物	配布プリント。3色以上の蛍光ペン。ノート。		
講義計画	講義内容		
1～3	末梢神経		
4、5	体幹部の筋(胸筋、腹筋)		
6、7	体幹部の筋(会陰筋、背筋)		
8、9	上肢の筋(上肢帯と上腕の筋)		
10、11	上肢の筋(前腕と手の筋)		
12、13	下肢の筋(下肢帯と大腿の筋)		
14、15	下肢の筋(下腿と足の筋)		
16	頭頸部の筋		
17	期末試験		
18	頭頸部の筋		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験100% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学		
参考文献	分冊解剖アトラス I ~ III		

科目名	解剖学Ⅱ-A		
担当教員	影山 幾男	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	<p>人体解剖学では正常なヒトの構造について肉眼解剖学的に諸器官の形態学的特徴と人体の構造を理解する。「解剖学ⅡA」では「神経解剖学」の講義を扱う。「神経解剖学」では、刺激を伝達・統合する神経系の解剖学的特徴について学ぶ。</p> <p>人体解剖学の理解には、ヒトのからだを系統別に分けて理解するだけではなく、ヒトの発生過程や脊椎動物の進化過程についても思いをめぐらし、形態形成学を学ぶことが肝心である。</p>		
科目の目標	人体の正常な形態と構造について学び、鍼灸師として必要な解剖学的知識を修得する。		
学習の到達目標	<p>神経解剖学の到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 ・ 脳脊髄神経と自律神経の違いについて説明できる。 ・ 脳と脊髄の基本的構造を説明できる。 <p>感覚器系の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚器について説明できる。 ・ 平衡聴覚器について説明できる。 ・ 味覚器について説明できる。 ・ 嗅覚器について説明できる。 ・ 皮膚について説明できる。 		
学習方法・学習上の注意	教科書を読んで理解できなかった事項について焦点をあてた講義を行うので、事前に配布する教科書「解剖学」の該当するページを熟読した上で、予備知識を持って講義に臨むこと。また、講義ごとに講義内容のプリントを配布する。		
関連科目	生理学、病理学		
持参物	教科書、配布プリント、小テスト		
講義計画	講義内容		
1	中枢神経系①:A神経系の基礎 1神経系の区分と特徴 2神経組織 a.神経細胞(ニューロン) b.神経細胞の種類 c.支持細胞、電話局の話		
2	中枢神経系②:3灰白質、白質と神経節、根 4中枢神経系の区分		
3	中枢神経系③: 5脳室系 6髄膜と脳脊髄液 a.硬膜 b.クモ膜 c.軟膜		
4	中枢神経系④:脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 溝と回、中枢神経系の血管		
5	中枢神経系⑤:脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 機能局在		
6	中枢神経系⑥:脳 1各部の形態と機能 a.終脳(大脳半球) 大脳基底核		
7	中枢神経系⑦:脳 1各部の形態と機能 b.間脳 c.中脳、橋、延髄、d.小脳		
8	中枢神経系⑧:脊髄 a.前根と後根(ベル・マジャンディーの法則) b.脊髄の内部構造		
9	中枢神経系⑨: 伝導路 a.下行性伝導路 b.上行性伝導路 c.反射路		
10	末梢神経系① 1脳神経 I.嗅神経 II.視神経 III.動眼神経 IV.滑車神経の起始・走行・分布・障害		
11	末梢神経系② 1脳神経 V.三叉神経 VI.外転神経 VII.顔面神経の起始・走行・分布・障害		
12	末梢神経系③ 1脳神経 VIII.内耳神経 IX.舌咽神経 X.迷走神経 XI.副神経 XII.舌下神経		
13	末梢神経系④ 2脊髄神経 a.脊髄神経後枝 b.頸神経叢 c.腕神経叢 d.胸神経 e.腰神経叢		
14	末梢神経系⑥ 2.脊髄神経 f.仙骨神経叢 g.陰部神経叢 h.尾骨神経 i.デルマトーム		
15	神経解剖学⑦:3自律神経系 a.交感神経系 b.副交感神経系 c.関連痛		
16	感覚器系: 視覚器、平衡聴覚器		
17	感覚器系: 皮膚、味覚器、嗅覚器。まとめ		
18	最終試験(多肢選択方式)		
成績評価の方法と基準	評価方法:「客観試験」および「記述試験」を実施し、60点以上を合格とする。 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	「解剖学」第2版 医歯薬出版、河野邦雄、伊藤隆造他著		
参考文献	分担解剖学2、金原出版、平沢興著		

科目名	解剖学Ⅱ－B		
担当教員	谷口 美保子	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	心臓・血管・内分泌腺の構造と部位を学び、その周辺の組織の支配範囲を知る。		
科目の目標	心臓・血管・内分泌腺の名称・形状・位置関係を知る。		
学習の到達目標	心臓・血管・内分泌腺の位置関係や支配範囲を知る。		
学習方法・学習上の注意	人体における各部位を描写できるようになること		
関連科目	生理学		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	循環系		
2～3	心臓		
4	動脈・静脈		
5	肺循環・体循環		
6	各部位の循環		
7	頭頸部の血管		
8～9	上肢の血管		
10～11	下肢の血管		
12	胎児循環		
13	リンパ管		
14	下垂体		
15	松果体・甲状腺・上皮小体		
16	副腎・睪臓・性腺		
17	期末試験		
18	振り返り		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社)		

参考文献

ネッター 解剖学アトラス 第4版(南山堂)
グレイ解剖学アトラス(エルゼビア・ジャパン株式会社)
プロメテウス解剖学アトラス(医学書院) 他

科目名	生理学 I -A		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	生理学 I では日頃私たちが意識することなく働いている身体の仕組みについて学習します。このような働きは意識して変化するわけではありませんが、私たちの生命維持には欠かせない働きです。		
科目の目標	人の体の働きを学びます。私たちは寝ているときも体は活動しています。そのように、生理学 I では生命活動の仕組みについて学び理解します。正常な身体の仕組みを理解することは、例えば病気になったときに体のどこが悪いか理解することにも繋がります。		
学習の到達目標	生理学の基礎、循環系、呼吸系の生理機能について学び、理解し、覚える。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	解剖学、病理学概論、臨床医学総論、臨床医学各論など		
持参物	教科書(生理学第3版)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	導入、生理学の基礎①		
2	生理学の基礎②		
3	生理学の基礎③		
4	循環①		
5	循環②		
6	循環③		
7	循環④		
8	循環⑤		
9	中間試験		
10	循環⑥		
11	循環⑦		
12	循環⑧		
13	循環⑨		
14	呼吸①		
15	呼吸②		
16	呼吸③		
17	復習		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験結果80%(2回の試験結果の平均×0.8)、学習意欲(出席状況を含む)20% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。 D評価の者には再試験を実施する。また授業態度が悪い、授業中の食事などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	生理学 第3版:医歯薬出版株式会社		
参考文献	集中講義生理学 メジカルビュー社 新生理学 日本医事新報社		

科目名	生理学 I - B		
担当教員	岩村 英明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	生物が示す様々な生理機能、生命現象について授業を行う。		
科目の目標	生物が示す生理機能、生命現象を理解する。特に、生理学を学んだ後に2年次、3年次の授業へとつながるように暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような活用できる知識を習得する。		
学習の到達目標	消化と吸収、代謝、体温、排泄の生理機能について学び、理解し、覚える。		
学習方法・学習上の注意	毎時間授業資料を配布し、その内容に沿って授業を行う。生理学は基礎科目であり、他の科目の理解にもつながる重要なものなので、授業後はしっかりと復習をする。		
関連科目	解剖学、病理学概論、臨床医学総論、臨床医学各論など		
持参物			
講義計画	講義内容		
1～5	消化と吸収		
6～8	栄養と代謝		
9	中間試験		
10	中間試験解答解説		
11～12	体温		
13～16	排泄		
17	期末試験		
18	期末試験解答解説		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験結果90%、出席率10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。 D評価の者には再試験を実施する。		
使用テキスト	生理学 第3版：医歯薬出版株式会社		
参考文献	解剖生理：医歯薬出版株式会社		

科目名	生理学 I - C		
担当教員	立川諒	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	生物が示す生命現象を理解し、様々な生命現象が協調と統制によって人体生活動が維持されていることを理解する。特に、生理学を学んだ後に病態生理・臨床医学各論とつながるように暗記に頼らず理解をして、最終目標である鍼灸臨床で患者に説明できるような活用できる知識を習得する		
科目の目標	患者に人体の正常な状態はどのような状態であるか自らの言葉で表現できるようになる。その後、2年次には生理学や解剖学をベースとして病態生理を学び患者にその病態を説明できるようにする。		
学習の到達目標	生理学の基礎を学び、内分泌・神経系とそれに関連した知識を理解・説明できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントと教科書をもとに講義		
関連科目	解剖学、臨床医学総論・各論		
持参物	教科書、配布資料		
講義計画	講義内容		
1	内分泌系総論		
2	内分泌-ホルモンの種類とその働き(視床下部ホルモン)		
3	内分泌-ホルモンの種類とその働き(下垂体ホルモン)		
4	内分泌-ホルモンの種類とその働き(甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン)		
5	内分泌-ホルモンの種類とその働き(膵臓のホルモン)		
6	内分泌-ホルモンの種類とその働き(副腎のホルモン、性ホルモン)		
7	総復習(内分泌系)		
8	神経系-神経系と神経組織		
9	神経系-神経線維の興奮伝導、シナプス伝達		
10	神経系-中枢神経系、大脳、間脳		
11	神経系-脳幹、小脳		
12	神経系-脳波と睡眠、脊髄		
13	神経系-伝導路		
14	神経系-運動調節(骨格筋の神経支配、反射)		
15	神経系-末梢神経系(脳神経、脊髄神経、自律神経)		
16	神経系-末梢神経系(脳神経、脊髄神経、自律神経)		
17	総復習(神経系)		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 解剖生理		
参考文献	医学書院 標準生理学		

科目名	生理学Ⅱ－A		
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	神経、筋、運動、感覚の生理学		
科目の目標	神経、筋、運動、感覚の生理学の理解		
学習の到達目標	1. 神経の生理学について知識を定着させる。 2. 筋の生理学について知識を定着させる。 3. 運動の生理学について知識を定着させる。 4. 感覚の生理学について知識を定着させる。		
学習方法・学習上の注意	ノートを作って予習・復習をする。		
関連科目	解剖学		
持参物	教科書(解剖学、生理学)		
講義計画	講義内容		
1	神経の生理学		
2	神経の生理学		
3	神経の生理学		
4	神経の生理学		
5	神経の生理学		
6	筋の生理学		
7	筋の生理学		
8	筋の生理学		
9	筋の生理学		
10	筋の生理学		
11	運動の生理学		
12	運動の生理学		
13	運動の生理学		
14	感覚の生理学		
15	感覚の生理学		
16	感覚の生理学		
17	期末試験		
18	感覚の生理学		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験100% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社) 生理学 第3版(医歯薬出版株式会社)		
参考文献			

科目名	生理学Ⅱ-B		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	生理学ⅡBでは、日頃私たちが意識することなく働いている身体の仕組みについて学習します。このような働きは意識して変化するわけではありませんが、私たちの生命維持には欠かせない働きです。また1年次に学習した生理学のまとめと統合、問題演習を行う。		
科目の目標	同一分野での解剖と生理の統合を行い、病態把握など臨床での鑑別能力の基礎となる知識をしっかりと定着させる。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の防御機構に関する内容について知識を定着させる。 2. 身体活動の協調に関する内容について知識を定着させる。 3. 循環に関する内容について復習・知識を定着させる。 4. 消化と吸収に関する内容について復習・知識を定着させる。 5. 内分泌に関する内容について復習・知識を定着させる。 		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	解剖学、生理学		
持参物	教科書(生理学第3版)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1,2	OA 第14章 生体の防御機構		
2,3	第14章 生体の防御機構 第15章 身体活動の協調		
4~6	循環 総復習		
7~10	消化と吸収 総復習		
11~13	内分泌 総復習		
14~17	まとめ		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 試験80%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20%</p> <p>評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	生理学 第3版(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社)		

科目名	運動学		
担当教員	相馬 俊雄, 横田 裕丈	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	講義 1単位	時間数	16時間
科目の概要	この科目では, 人の身体運動・動作のメカニズム, 原理について, 解剖学, 生理学, 物理学などと関連付けて学習する.		
科目の目標	身体運動の力学的・神経学的な制御メカニズムを知り, 対象者に理論に基づいた介入ができることを目標とする.		
学習の到達目標	1. 身体運動に関する, 骨, 関節, 筋などの役割を理解する. 2. 身体運動・動作のメカニズムを理解する. 3. 各関節の機能・動きのメカニズムについて理解する.		
学習方法・学習上の注意	授業の資料を配布し, その資料に沿って授業を行う. 予習・復習をしっかりと行う.		
関連科目	解剖学, 生理学, リハビリテーション医学		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	関節の動き, 運動の力学		
2	生体の構造と機能		
3	姿勢とバランス機能		
4	運動療法におけるバイオメカニクス		
5	上肢(肘・前腕・手・手指)の機能		
6	脊柱(頸部)・骨盤・体幹の機能		
7	肩甲帯・肩の機能		
8	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:筆記試験100% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満) 欠席が授業実施の1/3以上の者は, 定期試験の受験資格はない.		
使用テキスト			
参考文献	リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)		

科目名	病理学概論		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年生	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	1年生では正常構造や機能を系統的に学びましたが、2年生でこれから学ぶ病理学概論はこれらの基礎医学系科目と、今後登場する臨床医学系科目とをリンクさせる重要な役割を担う科目です。人体の疾病についての原因や病態などが考察できる基礎的な病理学的知識を習得します。		
科目の目標	概要でも述べたように、人体の疾病についての原因や病態などが考察できる、基礎・基本的な病理学的知識を習得すること。このような知識を習得し今まで漠然としていた疾病への理解を深めていきます。		
学習の到達目標	1. 病理学とは何かを理解する。2. 疾病の分類について覚える。3. 病因について覚える。4. 循環障害について理解する。5. 退行性病変について理解する。6. 進行性病変について理解する。7. 炎症について理解する。8. 腫瘍について理解する。9. 免疫異常・アレルギーについて理解する。10. 先天性異常について理解する。		
学習方法・学習上の注意	毎時間プリントを配布し、プリントの記述に沿って授業を行う。 欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	生理学、衛生学、臨床医学総論、臨床医学各論、はりきゅう理論		
持参物	教科書(病理学概論)、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	病理学の定義と分類～予後及び転帰		
2	病因①		
3	病因②		
4	病因③		
5	循環障害①		
6	循環障害②		
7	循環障害③		
8	退行性病変、進行性病変		
9	中間試験		
10	炎症①		
11	炎症②		
12	腫瘍①		
13	腫瘍②		
14	腫瘍③、免疫異常・アレルギー①		
15	免疫異常・アレルギー②		
16	先天性異常		
17	先天性異常		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。試験結果を総合的にみて成績評価を行う。中間試験結果が60%未満の者には確認試験を行い、期末試験結果で60%未満の者には再試験を行う。また授業態度が悪い、授業中の食事、携帯電話の操作などがあった場合は減点、欠席扱いとすることがあります。		
使用テキスト	『病理学概論 第2版』:医歯薬出版株式会社		
参考文献	アンダーウッド 病理学 西村書店、カラーで学べる 病理学 NOUVELLE HIROKAWA		

科目名	臨床医学総論		
担当教員	谷口 美保子	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	72時間
科目の概要	臨床現場でみられる症状・所見から病名・予後を推測できるようにし、治療へ繋げることができる。また、鍼灸治療が不適応な患者について判断できるようになる。		
科目の目標	聴取すべき症状・所見について知り、疾患を推測できる。 臨床所見の取り方・検査法を理解し、身に着ける。		
学習の到達目標	聴取すべき症状・所見を列挙できる。 臨床所見の取り方・検査法を理解し、説明できる。 症状・臨床所見から疾患を推測できる。		
学習方法・学習上の注意	臨床医学総論・各論の復習を行い、実際の症状を想定しながら治療法を考える。		
関連科目	解剖学、生理学、病理学概論、臨床医学各論		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	診察の概要・方法		
2	視診・触診・打診・聴診		
3～4	バイタルサイン		
5～6	全身の診察		
7～9	局所の診察(頭頸部・体幹)		
10～11	局所の診察(四肢)		
13～15	神経系の診察		
16～17	運動機能検査		
18	中間試験		
19～22	整形外科的検査法		
23	臨床検査法		
24～25	主な症状の診察法(頭頸部)		
26～28	主な症状の診察法(胸腹部)		
29～30	主な症状の診察法(運動器)		
31～34	主な症状の診察法(全身症状)		
35	評価法		
36	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験70%、学習意欲(授業態度)20%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 臨床医学総論 第2版		
参考文献	医療情報科学研究所 ビジュアルノート 第5版 文光堂 図解 鍼灸療法技術ガイド I II		

科目名	臨床医学各論 I		
担当教員	佐々木 勇人	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	72時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。特に、緊急を要する疾患や鍼灸適応不応の鑑別ができるようにする。		
学習の到達目標	感染症・消化管疾患・肝胆膵疾患・呼吸器疾患それぞれの病態生理を理解し、特徴的な所見を理解すること。		
学習方法・学習上の注意	ビジュアルノートと教科書、配布プリントを毎回持ってくる。各章毎に小テストを実施する。		
関連科目	解剖学・生理学・病理学		
持参物	教科書、ノート、筆記用具、ビジュアルノート		
講義計画(回数)			
1～4	ガイダンス・第1章 感染症		
5～8	第2章 消化管疾患		
9	まとめ		
10～13	第3章 肝胆膵疾患		
14～17	第4章 呼吸器疾患		
18	前期試験		
19～24	9章 循環器疾患		
25～27	10章 血液・造血管疾患		
28	まとめ		
29～35	11章 神経疾患・まとめ		
36	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験90%、平常点(小テスト)10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント、臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)ビジュアルノート(メディックスメディア)		
参考文献	臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)ビジュアルノート(メディックスメディア)		

科目名	臨床医学各論Ⅱ		
担当教員	立川諒	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	54時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し病態を理解する。		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。		
学習の到達目標	疾患それぞれの病態生理を理解し、特徴的な所見を理解すること。		
学習方法・学習上の注意			
関連科目	解剖学・生理学・病理学		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1	8章 整形外科疾患総論		
2-10	8章 整形外科疾患		
11	整形外科まとめ		
12-16	5章 腎尿路疾患		
17	腎尿路疾患まとめ		
18-22	6章 内分泌疾患		
23	内分泌疾患まとめ		
23-25	7章 糖・代謝疾患		
26	糖・代謝疾患まとめ		
27	試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	臨床医学各論・総論(医歯薬出版株式会社)、授業資料		
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)		

科目名	臨床医学各論Ⅲ		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	臨床各科の代表的な疾患を学び、これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患を鑑別し、病態を理解する。		
科目の目標	代表疾患の病態生理を理解し、類似疾患との鑑別ができるようにする。特に、緊急を要する疾患や鍼灸適応不応の鑑別ができるようにする。		
学習の到達目標	疾患それぞれの病態整理を理解し、特徴的な所見を理解すること。		
学習方法・学習上の注意	教科書・配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	解剖学・生理学・病理学		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1～3	12章 リウマチ性疾患・膠原病		
4～7	13章 その他の疾患		
8	まとめと確認		
9	1章 感染症		
10	1章 感染症		
11	2章 消化管疾患		
12	2章 消化管疾患		
13	3章 肝胆膵疾患		
14	3章 肝胆膵疾患		
15	4章 呼吸器疾患		
16	4章 呼吸器疾患		
17	5章 腎・尿路疾患		
18	5章 腎・尿路疾患		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験100% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント、臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)		

科目名	リハビリテーション医学		
担当教員	相馬 俊雄, 高橋 英明	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	48時間
科目の概要	リハビリテーション医学とは、人が疾病や外傷などにより心身に障害をもっても、一般社会の中で生活できるように考え援助していく役割について理解する。		
科目の目標	リハビリテーション医学の対象となる代表的な疾患・外傷を通じて、リハビリテーション医学の特質である障害学、基本的な診断学、治療学について学習する。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念について理解する。 2. 障害のとらえ方について理解する。 3. 身体障害者の動向についての知識を身につける。 4. リハビリテーションチームを構成するメンバーの職種について理解する。 5. 障害の各種評価方法を覚える。 6. 医学的リハビリテーションの職種とその内容について覚える。 7. 各疾患のリハビリテーションの内容について理解する。 		
学習方法・学習上の注意	授業の資料を配布し、その資料に沿って授業を行う。予習・復習をしっかりと行う。		
関連科目	運動学		
持参物	教科書(リハビリテーション医学)、配布資料		
講義計画	講義内容		
1	リハ医学総論		
2	人の身体機能		
3	高齢者の健康増進		
4	整形外科疾患の評価		
5	整形外科疾患の治療		
6	スポーツ障害のリハビリテーション		
7	介護福祉施設におけるリハビリテーション		
8	運動療法		
9	ストレッチ		
10	筋カトレーニング		
11	廃用症候群		
12	リハビリテーションにおける評価①(歩行)		
13	リハビリテーションにおける評価②(ROM・MMTなど)		
14	神経筋疾患のリハビリテーション		
15	心疾患のリハビリテーション		
16	呼吸器疾患のリハビリテーション		
17	脳卒中のリハビリテーション1		
18	脳卒中のリハビリテーション2		
19	脊髄損傷のリハビリテーション		
20	小児のリハビリテーション		
21	物理療法		
22	歩行補助具、福祉用具		
23	地域リハビリテーション		
24	まとめ・試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:筆記試験100% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)		
使用テキスト			
参考文献	リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社)		

科目名	公衆衛生学		
担当教員	谷口 美保子	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	72時間
科目の概要	公衆衛生学の概論について学習する。 最新のデータに基づき、医療技術者として知っておくべき基礎的な教養を学習する。		
科目の目標	健康の概念を理解し、日本における衛生のシステムを理解する。		
学習の到達目標	鍼灸師に必要な公衆衛生の知識を習得する。 社会保障、感染の対策、病気の予防などの知識をどのように役立てるか実践できるようにする。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントと教科書をもとに講義を行う。		
関連科目	はりきゅう理論、医療概論、関係法規		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	公衆衛生と健康の概念		
2	医の倫理		
3	疫学		
4	保健統計		
5	医師法・関係法規		
6	終末期医療と死の概念		
7	医療の質と安全確保		
8	医療法と医療体制		
9	社会保障と医療経済		
10	地域保健、成人保健と健康増進		
11	生活習慣病		
12	母子保健		
13	母子保健		
14	高齢者保健		
15	介護保険		
16	介護保険		
17	障害者福祉		
18	精神保健福祉、歯科保健		
19	復習		
20	中間試験		
21	感染症		
22	感染症		
23	病原微生物		
24	感染対策・物理的消毒法		
25	化学的消毒法		
26	食品保健・食中毒		
27	栄養、学校保健		
28	産業保健		
29	職業性疾病		
30	環境		
31	環境		
32	環境		
33	国際保健		
34	演習問題		
35	演習問題		
36	定期試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験70%、学習意欲(授業態度)20%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	MEDIC MEDIA 公衆衛生がみえる		
参考文献	医歯薬出版 公衆衛生学		

科目名	保健医療福祉及び関連法規		
担当教員	谷口 美保子	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	医療人及びはり師・きゆう師として身に着けるべき倫理・法律を知る。		
科目の目標	はり師・きゆう師に関する法律と罰則を理解する。 はり師・きゆう師として業務に従事するうえで必要な倫理規範を身に着ける。		
学習の到達目標	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゆう師に関する法律について理解する。 法の体系・関連する法規について知る。		
学習方法・学習上の注意	法律に記載されている内容を自分事として考え、理解すること		
関連科目	公衆衛生学・医療概論		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1～2	医療倫理		
3～4	施術者としての倫理		
5	法とは		
6	免許と試験		
7～9	業務		
10	医療制度		
11	医療法		
12～13	医療従事者に関する法律		
14	薬事法規		
15	衛生関係法規		
16	社会福祉関係法規		
17	社会保険関係法規		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験70%、学習意欲(授業態度)20%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 関係法規 第7版 医歯薬出版株式会社 医療概論 第1版		
参考文献	MEDIC MEDIA 公衆衛生がみえる 2024-2025		

科目名	医療概論		
担当教員	五十嵐 力	実務経験の有無及び経歴	
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 1単位	時間数	22時間
科目の概要	医療人の基礎教養として、現代の医療制度ならびに医療倫理について学習する。 併せて、鍼灸学校や鍼灸の教育制度、最低限の法規、世界の現状、学会の現状を客観的に学習する。		
科目の目標	医療制度は一般的な基礎教養であり、医療人として患者さんに有益な情報を常に提供できるように熟知する。また、医療制度は絶えず改正されるため、常に最新の情報を収集し、知識を得るように心がける。 日本の鍼灸業界などの現状を学ぶ。		
学習の到達目標	日常の鍼灸臨床において、基本的な鍼灸の歴史について患者さんから問われることは少なくない。知識を自分のものとして、自分の言葉で説明できるように理解する。 業界について鍼灸師以外の人に説明できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	配布プリントに沿って授業を行う。欠席した場合、友人からプリントを借りるなどして、自分でしっかりフォローしておいて下さい。		
関連科目	関係法規、衛生学・公衆衛生学		
持参物	配布プリント、使用テキスト、参考文献		
講義計画	講義内容		
1～2	鍼灸業団体その他		
3	医療従事者		
4	医療施設		
4～5	国民医療費		
6～7	医療保険		
7～8	公的医療負担		
8	介護サービス行政		
9	医療従事者の倫理		
10	期末試験		
11	点検評価		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。 試験結果を総合的にみて成績評価を行う。		
使用テキスト	『医療概論』：医歯薬出版株式会社		
参考文献	『公衆衛生がみえる』：株式会社メディックメディア		

※授業の進行状況により、内容を変更する場合があります。

科目名	経絡経穴概論 I		
担当教員	佐々木勇人、御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	72時間
科目の概要	<p>施術部位の基本となり、診断の部位ともなる経絡経穴について学習する。流注や経穴の場所及び局所を学習する。 主として十四経脈(正経十二経脈・任脈・督脈)と要穴について学ぶ。</p>		
科目の目標	<p>経穴名を言われて、その経穴がどの経絡に属し、凡そどの部位にあるのか指し示することができるようにする。また、流注がイメージとして頭に入り、各経絡がどの部位を走行し、どの部位で接続しているかを理解できるようにする。要穴をしっかりと覚える。</p>		
学習の到達目標	<p>指定された経穴を正確に取ることができるようにする。また、要穴や特効穴の知識を得る。</p>		
学習方法・学習上の注意	<p>経穴の順番がわかり、正しい穴名を言える・書ける様に学習すること。暗唱と書き取りの復習を行うこと。</p>		
関連科目	<p>①東洋医学概論 ②実技各種: 病態に応じた選穴をし、そこに施術するためには、その経穴を取るための知識・技術が必要となる</p>		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	ガイダンス		
2・3	経絡経穴の基礎、経脈・経穴		
4・5	経絡経穴の基礎、経脈・経穴		
6・7	督脈の流注経穴		
8・9	任脈の流注経穴、まとめと確認		
10・11	肺経の流注経穴、大腸経の流注経穴		
12・13	まとめと確認		
14・15	胃経の流注経穴、脾経の流注経穴		
16・17	脾経・心経の流注経穴		
17	総まとめ		
18	まとめと確認		
19	導入		
20	太陽経の確認・小腸経の流注経穴		
21・22	小腸経・膀胱経の流注経穴		
23・24	腎経の流注経穴		
25・26	心包経の流注経穴、		
27・28	三焦経の流注経穴		
29・30	胆経の流注経穴		
31・32	胆経の流注経穴・肝経の流注経穴		
33・34	十四経まとめ復習1		
35・36	まとめと確認		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 佐々木: 試験90%、平常点(課題・小テスト)10% 御書: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 最終的に二人の平均で評価する。 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	教科書(経絡経穴概論)		
参考文献	東洋医学概論(株式会社医道の日本社)		

科目名	経絡経穴概論Ⅱ		
担当教員	谷口 美保子	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	経絡経穴概論Ⅰで学習した十四経脈を復習する。 奇経八脈・奇穴及び経穴の現代学的研究について学習する。		
科目の目標	奇経八脈及び奇穴の部位と主治を理解する。 各経穴の部位を位置関係を理解する。		
学習の到達目標	要穴表及び胸腹部・背部の経穴の横並びを覚え、書けるようになる。 主要な奇穴の部位と主治を覚える。		
学習方法・学習上の注意	繰り返し復習し、暗記暗唱できるようにすること		
関連科目	東洋医学概論、実技各種		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	正経十四経脈の復習		
2	経脈復習、よく知られる経穴の組み合わせ		
3	経穴復習、胸腹部横並び		
4	経穴復習、背部横並び		
5	経穴復習、督脈・任脈		
6	経穴復習、衝脈・帯脈		
7	経穴復習、陽蹻脈・陰蹻脈		
8	経穴復習、陽維脈・陰維脈		
9	経穴復習、頭頸部の奇穴		
10	経穴復習、胸腹部の奇穴		
11	経穴復習、背部の奇穴		
12	経穴復習、上肢の奇穴		
13	経穴復習、下肢の奇穴		
14	経穴復習、経絡現象		
15	経穴復習、現代科学的研究		
16	経穴復習、紛らわしい経穴		
17	振り返り		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験70%、学習意欲（授業態度）20%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	教科書（経絡経穴概論）		
参考文献	東洋医学概論（株式会社医道の日本社）		

科目名	東洋医学概論Ⅰ		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	講義 4単位	時間数	72時間
科目の概要	歴史的背景や哲学観をふまえ、東洋医学的な人体の解剖生理や診察方法について学ぶ。 (医学体系の中で完成された考え方を理解することで、西洋医学と異なる部分や共通する部分を理解する。)		
科目の目標	東洋医学的な考えから人体の解剖生理と診察に必要な所見の意味について理解する。		
学習の到達目標	東洋医学的な基本的な考えを理解し、患者の症状から証へ導くための基礎を身につける。		
学習方法・学習上の注意	読めない漢字にフリガナを振る。 疑問に思ったことはすぐに質問することで自身の知識の向上を図る。		
関連科目	東洋医学概論Ⅱ、経穴経絡概論、東洋医学臨床論、はりきゅう理論		
持参物	教科書、配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション・東洋医学の歴史【第1章】		
2	東洋医学のルーツと歴史・人体の見方・東洋医学的治療・日本の東洋医学の現状【第1章】		
3	陰陽学説【第3章】		
4	陰陽学説・五行学説【第3章】		
5	五行学説【第3章】		
6	精【第2章】		
7	気【第2章】		
8	血・津液【第2章】		
9	生理物質の相互関係(気血津液まとめ)【第2章】		
10	神・人体における陰陽【第2章】		
11	陰陽学説・五行学説・精・気・血・津液・人体における陰陽のまとめ		
12	試験①		
13	評価・点検		
14	臓腑(概要・臓象学説の生理)【第2章】		
15	臓腑(肝・胆)【第2章】		
16	臓腑(心・小腸・心包)【第2章】		
17	臓腑(脾・胃)【第2章】		
18	臓腑(肺・大腸)【第2章】		
19	臓腑(腎・膀胱)【第2章】		
20	臓腑(三焦)・五臓相互関係【第2章】		
21	五臓六腑の生理		
22	経絡【第2章】		
23	経絡【第2章】		
24	五臓六腑の生理・経絡まとめ		
25	試験②		
26	評価・点検		
27	望診【第4章】		
28	聞診【第4章】		
29	問診【第4章】		
30	問診【第4章】		
31	問診【第4章】		
32	切診【第4章】		
33	切診【第4章】		
34	四診まとめ		
35	試験③		
36	評価・点検		
成績評価の方法と基準	評価方法:筆記試験(試験3回の平均点)80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新版 東洋医学概論』 医道の日本社		
参考文献	『中医学ってなんだろう①人間のしくみ』東洋学術出版 『わかりやすい臨床中医学概論』 医歯薬出版 『日本鍼灸医学(経絡治療・基礎編)』 経絡治療学会 『[詳解]中医学基礎理論』 東洋学術出版		

科目名	東洋医学概論Ⅱ		
担当教員	五十嵐力	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	東洋医学概論Ⅰで学習した東洋医学の哲学観に立脚した解剖生理・病理・病因を学び、それを踏まえて診断方法と治療方法を学ぶ。		
科目の目標	鍼灸師の根幹となる東洋医学の基礎であるこの科目を十分に理解することで、診察→診断→治療方針の立案→施術の選択といった臨床の流れの基礎をつくる。		
学習の到達目標	東洋医学概論Ⅰで学習した哲学観や解剖生理・診察に必要な所見を踏まえて診断論を理解する。それを基に弁証論治を行い、処方を行えるようにする。		
学習方法・学習上の注意	東洋医学概論Ⅰの知識を復習		
関連科目	東洋医学概論Ⅰ、経絡経穴概論、東洋医学臨床論、伝統鍼灸実技Ⅰ		
持参物	教科書、筆記用具、必要に応じてタブレット		
講義計画	講義内容		
1	オリテ		
2～6	生体物質と神の病理【第2章】		
6	人体における陰陽の病理【第2章】		
7～13	臓腑の病理・病証【第2章】		
13	中間試験		
14	経絡の病理【第2章】、病因病機【第4章】		
15	弁証【第5章】		
16	弁証【第5章】、治療法【第5章】		
17	期末試験		
18	点検評価		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲（授業態度）10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	『新版 東洋医学概論』 医道の日本社		
参考文献	『中医学ってなんだらう ①人間のしくみ』東洋学術出版 『わかりやすい臨床中医臓腑学』医歯薬出版 『日本鍼灸医学(経絡治療・基礎編)』経絡治療学会 『[詳解]中医基礎理論』東洋学術出版		

※授業の進行状況により、内容を変更する場合があります。

科目名	人体機能構造応用学 I		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	国家試験に向けて解剖学の各単元の問題演習と解説を行う。		
科目の目標	解剖学の知識を定着させる。		
学習の到達目標	国家試験に出題される解剖学の知識を定着させる。		
学習方法・学習上の注意	解剖学の復習を適宜行う。		
関連科目	解剖学		
持参物	解剖生理教科書		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション、循環器		
2～3	循環器		
4～6	消化器		
7～8	呼吸器		
9～10	泌尿器		
11	生殖器		
12～13	神経		
14	感覚器		
15～16	運動器		
17	期末試験		
18	評価・点検		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	『解剖学 第2版』: 医歯薬出版株式会社 など		

科目名	人体機能構造応用学Ⅱ		
担当教員	立川諒	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	生理学全範囲の総復習を行う。		
科目の目標	国家試験合格レベルまで生理学の知識量を増やし、記憶の定着を図る。		
学習の到達目標	生理学を学び、生理学とそれに関連した知識を理解・説明できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	1、2年時の生理学・病理学の資料・ノート		
関連科目	生理学、病理学		
持参物	教科書、配布資料		
講義計画	講義内容		
1	生理学の基礎		
2	循環器		
3	循環器		
4	呼吸器		
5	呼吸器		
6	消化・吸収		
7	代謝		
8	体温		
9	排泄		
10	内分泌		
11	生殖・成長・老化		
12	神経系		
13	神経系		
14	神経系		
15	筋・運動		
16	感覚		
17	感覚		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 解剖生理		
参考文献	医学書院 標準生理学		

科目名	臨床応用学 I		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	1, 2年生で学んできた知識の確認や統合を行う。		
科目の目標	専門知識が定着している事を確認し、臨床の場で応用できるようにする。		
学習の到達目標	各科目の基礎知識が身についている。 専門知識が定着しており、臨床の場に活かすことができる。		
学習方法・学習上の注意	配布資料を毎回持参すること。		
関連科目	各専門基礎分野及び専門分野		
持参物	配布資料、ノート、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1	導入		
2	講義と演習1		
3	講義と演習2		
4	講義と演習3		
5	講義と演習4		
6	講義と演習5		
7	講義と演習6		
8	講義と演習7		
9	講義と演習8		
10	講義と演習9		
11	講義と演習10		
12	講義と演習11		
13	講義と演習12		
14	講義と演習13		
15	講義と演習14		
16	講義と演習15		
17	期末試験		
18	試験解答・解説		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験90%、学習意欲(授業態度、出席状況など)10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト			
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)、 臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)、新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)(株式会社 南江堂)、 新版 リハビリテーション医学(株式会社文光堂)		

科目名	臨床応用学Ⅱ		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	1, 2年生で学んできた知識の確認や統合を行う。		
科目の目標	専門知識が定着している事を確認し、臨床の場で応用できるようにする。		
学習の到達目標	各科目の基礎知識が身についている。 専門知識が定着しており、臨床の場に活かすことができる。		
学習方法・学習上の注意	配布資料を毎回持参すること。		
関連科目	各専門基礎分野及び専門分野		
持参物	配布資料、ノート、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1	導入		
2	講義と演習1		
3	講義と演習2		
4	講義と演習3		
5	講義と演習4		
6	講義と演習5		
7	講義と演習6		
8	講義と演習7		
9	講義と演習8		
10	講義と演習9		
11	講義と演習10		
12	講義と演習11		
13	講義と演習12		
14	講義と演習13		
15	講義と演習14		
16	講義と演習15		
17	期末試験		
18	試験解答・解説		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験90%、学習意欲(授業態度、出席状況など)10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト			
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)、 臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)、臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)、 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)(株式会社 南江堂)、		

科目名	臨床応用学Ⅲ		
担当教員	佐々木勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	これまで学習してきた西洋医学的基礎に基づき疾患毎に鑑別し、病態を理解する。		
科目の目標	代表的な疾患の病態生理を理解しその特徴を把握するとともに、類似疾患との鑑別ができるようにする。特に、緊急性の高い疾患や鍼灸適応不適応の鑑別ができるようにする。		
学習の到達目標	特徴的な所見を把握し疾患それぞれの病態整理を理解すること。		
学習方法・学習上の注意	教科書・配布プリントを毎回持参すること。		
関連科目	解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1・2	6章 内分泌疾患		
3・4	7章 代謝栄養疾患		
5・6	8章 整形外科疾患		
7・8	8章 整形外科疾患		
9・10	9章 循環器疾患		
11・12	10章 血液造血器疾患		
13・14	11章 神経疾患		
15	12章 リウマチ性疾患		
16	13章 その他の領域		
17	まとめ1		
18	まとめ2		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験100% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	授業プリント、臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)		
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)		

科目名	伝統臨床応用学		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	東洋医学概論Ⅰ・Ⅱ、臨床医学総論、臨床医学各論で学んだ基礎知識や診断方法を基に日本の鍼灸現場で多い疾患を中心に疾患を学習する。 実際の臨床現場でみられる症状において、治療方針の立て方と治療法の選び方を学ぶ。		
科目の目標	伝統医学の治療方針を学ぶ。 症状から病態を推測し、西洋医学的な治療方針・治療法を考えられるようになる。		
学習の到達目標	症状から病態を推測するための技術を得る。 西洋医学的な治療方針・治療法を考えられるようになる。		
学習方法・学習上の注意	臨床医学総論・各論の復習を行い、実際の症状を想定しながら治療法を考える。		
関連科目	解剖学、生理学、経絡経穴概論、 臨床医学総論、臨床医学各論、臨床基礎実習		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1～2	ガイダンス、診察・治療の原理原則について		
3～4	カルテの記載について		
5～6	治療穴とその応用について		
7～8	手技と手法について		
9～11	徒手検査法について		
12	中間試験		
13～14	疼痛について		
15	頭痛		
16	顔面痛		
17	期末試験		
18	復習		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)		
参考文献	図解 鍼灸療法技術ガイドⅠⅡ(文光堂)		

科目名	東洋医学臨床論		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	54時間
科目の概要	伝統臨床応用学に引き続き、東洋医学概論Ⅰ・Ⅱ、臨床医学総論、臨床医学各論で学んだ基礎知識や診断方法を基に日本の鍼灸現場で多い疾患を中心に疾患の各論を学習する。		
科目の目標	各疾患の病理・病態を理解し、その治療方針を学ぶ。		
学習の到達目標	患者が訴える症状からその病態を推測し、どの治療方針が最適であるかを決められるようにする。		
学習方法・学習上の注意	伝統臨床応用学、東洋医学概論、経絡経穴概論、臨床医学総論、臨床医学各論の復習を適宜行うこと。		
関連科目	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論、伝統臨床応用学 臨床医学総論、臨床医学各論、臨床基礎実習Ⅰ・Ⅱ、臨床実習		
持参物			
講義計画	講義内容		
1～7	疼痛(関節痛・胸痛・腹痛)		
8～9	肝系統		
10～11	心系統		
12～15	脾系統		
16～18	肺系統		
19～20	腎系統		
21～22	全身の症候・その他症候		
23～24	女性特有の症候		
25	小児特有の症候・老年特有の症候		
26	期末試験		
27	評価・点検		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(70%)、授業態度(10%)、出席状況(20%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント		
参考文献	『東洋医学臨床論(はりきゅう編)』: 東洋療法学校協会 『東洋医学概論』: 東洋療法学校協会 『針灸学 基礎編』: 東洋学術出版社 『針灸学 臨床篇』: 東洋学術出版社 『図説 東洋医学 基礎編』: 株式会社 学習研究社 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』: 株式会社 文光堂 など		

科目名	伝統医学史		
担当教員	渡邊 真弓	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	前期
単位数	講義 1単位	時間数	16時間
科目の概要	現在行われている鍼灸が過去におけるどのような理論や技術に基づいているのか、中国と日本のあはきの歴史の変遷について学習する。		
科目の目標	あはきの歴史を学ぶことで当時の鍼灸を行っていた人たちの心持を認識し、鍼灸についての正しい知識・理解を得る。		
学習の到達目標	在学時はもちろん、資格取得後、臨床の場面において患者様は地域の人々の質問に自信をもって対応できる知識を養う。		
学習方法・学習上の注意	漢字や専門用語が多いですが、教養溢れる鍼灸師になるため慣れましょう。		
関連科目	はりきゅう理論		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	あはきの歴史 中国編(1)		
2	あはきの歴史 中国編(2)		
3	あはきの歴史 中国編(3)		
4	あはきの歴史 中国編(4)		
5	あはきの歴史 中国編(5)		
6	あはきの歴史 日本編(1)		
7	あはきの歴史 日本編(2)		
8	あはきの歴史 まとめ		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト			
参考文献	随時、紹介する。		

科目名	はりきゅう理論		
担当教員	岩村英明	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	講義 3単位	時間数	54時間
科目の概要	鍼灸の基礎知識、リスク管理、鍼灸の治療効果とそのメカニズムを学習する。		
科目の目標	鍼灸の基礎知識を身につけ、またリスク管理についての内容も理解し、臨床現場で応用できるようにする。治効・作用機序を、解剖・生理・病理を基礎として学習し理解する。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鍼灸についての様々な知識を身につける。 2. 鍼灸に関わるリスク管理の内容を覚え、臨床現場で応用できるようにする。 3. 鍼灸の治効機序を理解するために必要な基礎知識を身につける。 4. 鍼灸の治効機序について理解する。 		
学習方法・学習上の注意	国家試験のはり理論(10問)・きゅう理論(10問)と最も関わる重要な部分であるため、根気よく学習を進め、最低限の知識は習得する。		
関連科目	解剖学・生理学・病理学		
持参物	教科書、ノート、筆記用具		
講義計画			
1	オリエンテーション、鍼の基礎知識		
2	刺鍼の方式と術式、特殊鍼法		
3	灸の基礎知識、灸術の種類		
4	リスク管理		
5	試験①		
6	試験①解答解説		
7～16	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識		
17	試験②		
18	試験②解答解説		
19～23	鍼灸治効機序		
24～25	鍼灸治効機序と臨床の接点		
26	期末試験		
27	期末試験解答・解説		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10%</p> <p>評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	『はりきゅう理論 第3版』医道の日本社		
参考文献	『解剖学』医歯薬出版株式会社、『生理学』医歯薬出版株式会社、 『病理学概論』医歯薬出版株式会社		

科目名	伝統応用学 I		
担当教員	五十嵐力	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	3年次における国家試験対策とする。基礎科目のうち東洋医学概論を主とした学習の総まとめとする。		
科目の目標	基礎科目知識を定着させ、他科目知識の理解と定着へとつなげる。		
学習の到達目標	基礎科目(東洋医学概論)の重要ポイントをおさえる。		
学習方法・学習上の注意	国家試験対策ということもあり、基本的には過去に行った内容の復習になるので、授業が円滑に進むようにしっかりと復習をしておく。		
関連科目	東洋医学概論 I・II、東洋医学臨床論、伝統応用学 II		
持参物	東洋医学概論教科書、配布データ、配布プリント、ノート		
講義計画	講義内容		
1~4	東洋系基礎		
5~7	四診		
8~16	症例		
17	期末試験		
18	点検評価		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	新版 東洋医学概論:医道の日本社		
参考文献			

科目名	伝統応用学Ⅱ		
担当教員	五十嵐力	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	3年次における国家試験対策とする。基礎科目のうち東洋医学概論を主とした学習の総まとめとする。		
科目の目標	基礎科目知識を定着させ、他科目知識の理解と定着へとつなげる。		
学習の到達目標	基礎科目(東洋医学概論)の重要ポイントをおさえる。		
学習方法・学習上の注意	国家試験対策ということもあり、基本的には過去に行った内容の復習になるので、授業が円滑に進むようにしっかりと復習をしておく。		
関連科目	東洋医学概論Ⅰ・Ⅱ、東洋医学臨床論、伝統応用学Ⅰ		
持参物	東洋医学概論教科書、配布データ、配布プリント、ノート		
講義計画	講義内容		
1～16	症例		
17	期末試験		
18	点検評価		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	新版 東洋医学概論:医道の日本社		
参考文献			

科目名	鍼灸総合医学 I		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	前期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	3年次における国家試験対策を主とする。経絡経穴概論について復習・学習し、3学年に渡る学習の総まとめとする。		
科目の目標	1. 2年生の経絡経穴概論・経穴実技で定着させた基礎科目知識をもとに、各科目の重要ポイントをおさえる。違う科目であっても共通する分野の知識を関連付け知識定着を図る。		
学習の到達目標	各科目の重要ポイントをおさえる。 違う科目であっても共通する分野の知識を関連付ける。		
学習方法・学習上の注意	国家試験対策という事もあり、基本的には過去に行った内容の復習になるので、授業が円滑に進むようにしっかりと復習をしておく。配布プリントは欠席した場合クラスメイトにコピーさせて貰う等、フォローを自分で行ってください。		
関連科目	経絡経穴概論		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1～4	導入・正経の始まり、終わり□ ・ 正経の接続 ・ 奇経□		
5～6	骨度法		
7～8	五要穴（正経十二経脈の説明）・五腧穴・五行穴・四総穴・八会穴 ・八脈交会穴（八総穴、八宗穴）・交会穴、下合穴		
9	中間試験		
10～16	所属経脈、胸腹部、背腰殿部、手関節・外果・内果（下腿）、その他の同じ高さor並んでいる経穴解剖〔筋・腱・神経・神経溝〕〔動脈・拍動部〕〔骨・その他〕		
17	まとめ・復習		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲（授業態度）10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA（80点以上）・B(70点以上80点未満)・ C（60点以上70点未満）・D（60点未満）とする。 授業態度について 携帯電話、食事等授業態度が悪い場合は減点、欠席の対象となります。		
使用テキスト	教科書（経絡経穴概論）		
参考文献	経絡経穴概論（株式会社医道の日本社）		

科目名	鍼灸総合医学Ⅱ		
担当教員	佐々木勇人・御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	3年次における総まとめとして主に経絡経穴について学習する。十二正経、任脈・督脈を基礎として臓腑との関係を学び体表の走行を理解する。その後、任脈・督脈・十二正経上の経穴の場所を確認し特徴を学び総合的な知識を身に付け応用出来る様にする。		
科目の目標	1. 2年生の経絡経穴概論・経穴実技で定着させた基礎科目知識をもとに、各項目の重要ポイントをおさえる。違う科目であっても共通する分野の知識を関連付け知識定着を図る。		
学習の到達目標	各項目の重要ポイントを理解し知識として定着させる。 違う科目であっても共通する分野の知識を関連付ける。		
学習方法・学習上の注意	1・2年次の総まとめであり知識をより定着させるため、予習と復習を十分に行ったうえで授業に臨むこと。また授業数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。欠席した場合、配布プリントはクラスメイトにコピーさせて貰う等、フォローを自分で行ってください。		
関連科目	経穴実技、解剖学、経絡経穴概論		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1～3	解剖〔筋・腱・神経・神経溝・デルマトーム〕〔動脈・拍動部〕〔骨・その他〕解説・問題→解説		
4	奇穴		
5	組み合わせ穴		
6	経絡・経穴の現代的研究、注意が必要な穴		
7	復習		
8	まとめと確認		
9	演習Ⅰ		
10	演習Ⅱ		
11	演習Ⅲ		
12	演習Ⅳ		
13	まとめと確認		
14	演習Ⅴ		
15	演習Ⅵ		
16	演習Ⅶ		
17	演習Ⅷ		
18	演習Ⅸ		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験100% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	教科書(経絡経穴概論)		
参考文献	東洋医学概論(株式会社医道の日本社)		

科目名	総合応用 I		
担当教員	岩村英明、立川諒	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	解剖学・生理学・病理学全範囲の総復習を行う。		
科目の目標	国家試験合格レベルまで解剖学・生理学・病理学の知識量を増やし、記憶の定着を図る。		
学習の到達目標	解剖学・生理学・病理学を学び、解剖学・生理学・病理学とそれに関連した知識を理解・説明できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	1、2年時の解剖学・生理学・病理学の資料・ノート		
関連科目	解剖学、生理学、病理学		
持参物	教科書、配布資料		
講義計画	講義内容		
1	病理学とは(立川)		
2	疾病についての基本的な考え方(立川)		
3	病因(立川)		
4	循環障害(立川)		
5	退行性病変(立川)		
6	進行性病変(立川)		
7	炎症(立川)		
8	腫瘍(立川)		
9	免疫異常・アレルギー(立川)		
10	先天異常(立川)		
11	病理学総まとめ(立川)		
12	定期試験(立川)		
13	人体の構成、循環器系(岩村)		
14	呼吸器系、消化器系(岩村)		
15	泌尿器系、生殖器系(岩村)		
16	神経系、感覚器系(岩村)		
17	運動器系(岩村)		
18	定期試験(岩村)		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 解剖生理		
参考文献	医歯薬出版株式会社 解剖学 医学書院 標準生理学 医歯薬出版株式会社 病理学		

科目名	総合応用Ⅱ		
担当教員	谷口 美保子	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	国家試験対策として医療概論・関係法規・公衆衛生学を中心に		
科目の目標	各科目の知識を定着させ、他科目の知識を関連付ける。		
学習の到達目標	各科目の重点ポイントを押さえる。 設問に対し適切な回答・根拠を考えることができる。		
学習方法・学習上の注意	すでに授業で行った内容の復習となる。事前に講義内容の復習をしておくこと。		
関連科目	医療概論・関係法規・公衆衛生学		
持参物	教科書 ノート 筆記用具 配布プリント		
講義計画	講義内容		
1	医療倫理		
2	施術者としての倫理		
3	法・免許と試験		
4	業務		
5	医療制度		
6	医療法・医療従事者に関する法律		
7	薬事法規・衛生関連法規		
8	社会福祉関係法規・社会保険関連法規		
9	ライフスタイルと健康		
10	環境と健康		
11	産業保健		
12	精神保健・母子保健		
13	成人・高齢者保健		
14	感染症		
15	消毒法		
16	疫学		
17	保健統計		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験70%、学習意欲(授業態度)20%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	医歯薬出版株式会社 関係法規 第7版 医歯薬出版株式会社 医療概論 第1版 MEDIC MEDIA 公衆衛生がみえる 2022-2023		
参考文献	MEDIC MEDIA 公衆衛生がみえる 2024-2025		

科目名	総合応用Ⅲ		
担当教員	岩村 英明・大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	後期
単位数	講義 1単位	時間数	18時間
科目の概要	国家試験に向けて東洋医学臨床論の問題演習と解説を行う。		
科目の目標	東洋医学臨床論の知識を定着させる。		
学習の到達目標	国家試験に出題される東洋医学臨床論のポイントとその知識を定着させる。		
学習方法・学習上の注意	解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、東洋医学概論、経絡経穴概論の復習を適宜行う。		
関連科目	解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、東洋医学概論、経絡経穴概論		
持参物	解剖学教科書		
講義計画	講義内容		
岩村担当(5回)	現代医学系臨床問題		
大槻担当(4回)	東洋医学系臨床問題		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験(80%)、授業態度(10%)、出席状況(10%) 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布資料		
参考文献	『解剖学 第2版』: 医歯薬出版株式会社 『生理学 第3版』: 医歯薬出版株式会社 『臨床医学総論 第2版』: 医歯薬出版株式会社 『臨床医学各論 第2版』: 医歯薬出版株式会社 『リハビリテーション医学 第4版』: 医歯薬出版株式会社 『新版 東洋医学概論』: 医道の日本社 『新版 経絡経穴概論 第2版』: 医道の日本社 『新版 東洋医学臨床論(はりきゆう編)』: 南江堂 など		

科目名	はりきゅう応用学 I		
担当教員	立川諒	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	通年
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	1, 2年生で学んできた知識の確認や統合を行う。		
科目の目標	専門知識が定着している事を確認し、臨床の場で応用できるようにする。		
学習の到達目標	各科目の基礎知識が身についている。 専門知識が定着しており、臨床の場に活かすことができる。		
学習方法・学習上の注意	配布資料を毎回持参すること。		
関連科目	全科目		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	導入		
2	講義と演習 1		
3	講義と演習 2		
4	講義と演習 3		
5	講義と演習 4		
6	講義と演習 5		
7	講義と演習 6		
8	講義と演習 7		
9	講義と演習 8		
10	講義と演習 9		
11	講義と演習 10		
12	講義と演習 11		
13	講義と演習 12		
14	講義と演習 13		
15	講義と演習 14		
16	講義と演習 15		
17	期末試験		
18	試験解答・解説		
成績評価の方法と基準	評価方法: 試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)		
使用テキスト			
参考文献	生理学(医歯薬出版株式会社)、解剖学(医歯薬出版株式会社)、 臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)、新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)(株式会社 南江堂)、 新版 リハビリテーション医学(株式会社文光堂)		

科目名	はりきゅう応用学Ⅱ		
担当教員	立川諒	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3	開講学期	後期
単位数	講義 2単位	時間数	36時間
科目の概要	はりきゅう理論全範囲の総復習を行う。		
科目の目標	国家試験合格レベルまではりきゅう理論の知識量を増やし、記憶の定着を図る。		
学習の到達目標	はりきゅう理論を学び、それに関連した知識を理解・説明できるようになる。		
学習方法・学習上の注意	1、2年時のはりきゅう理論の資料・ノート		
関連科目	はりきゅう理論、生理学		
持参物	教科書、配布資料		
講義計画	講義内容		
1	概論		
2	鍼の基礎知識		
3	刺鍼方式と術式		
4	特殊鍼法		
5	灸の基礎知識		
6	灸術の種類		
7	リスク管理		
8	リスク管理		
9	鍼灸治効理論を理解するために必要な基礎知識		
10	鍼灸治効理論を理解するために必要な基礎知識		
11	鍼灸治効理論を理解するために必要な基礎知識		
12	鍼灸治効機序		
13	鍼灸治効機序		
14	鍼灸治効機序		
15	鍼灸治効機序		
16	総まとめ復習		
17	総まとめ復習		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	はりきゅう理論		
参考文献			

科目名	鍼灸実技 I-A		
担当教員	大槻健吾、五十嵐力	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 2単位	時間数	72時間
科目の概要	施術者としての心構え、身だしなみ、消毒法を含めた衛生上の注意点。基本的な刺鍼方法、施灸方法を習得する。		
科目の目標	消毒法から、施鍼・施灸までの各動作を身体で覚え動けるようにする。また各施術を安全に効率的かつ適度な刺激を加えられるようする。		
学習の到達目標	身だしなみチェック表、衛生チェック表を用いて常に清潔な状態を保つことができる。狙った刺入角度・深度通り、スムーズに刺鍼することが出来る。適切な刺激強度でスムーズに施灸することが出来る。		
学習方法・学習上の注意	人体に対する施術が主となるので、内出血や火傷などのリスク管理に注意する。		
関連科目	はりきゅう理論、経絡経穴概論、経絡経穴実技、解剖学、生理学、東洋医学概論、臨床基礎実習、臨床実習		
持参物			
講義計画	講義内容		
1	初回OA		
2	安全と衛生管理について(安全対策、感染対策)、鍼各部の名称や構造について		
3	各種刺鍼法の説明と実際(管鍼法、捻鍼法、打鍼法、直刺、斜刺、横刺)		
4	挿管法(片手挿管)		
5	管鍼法での刺鍼(刺鍼・抜鍼の方法、刺鍼練習台)		
6	管鍼法での刺鍼(刺鍼・抜鍼の方法、刺鍼練習台)		
7	艾について、灸治療について(有痕灸、無痕灸等)		
8	艾の捻り方、線香の持ち方、点火方法		
9	施灸練習(練習台)		
10	施灸練習(練習台)		
11	刺鍼練習(練習台)		
12	刺鍼練習(練習台)		
13	刺鍼練習(練習台、自分の下肢)		
14	刺鍼練習(練習台、自分の下肢)		
15	施灸練習(練習台、自分の下肢)		
16	施灸練習(練習台、自分の下肢)		
17	安全・衛生管理の復習、刺鍼練習(対人-下腿前面)		
18	刺鍼練習(対人-下腿前面)		
19	刺鍼練習(対人-下腿後面)		
20	施灸練習(対人-下腿後面)		
21	刺鍼練習(対人-大腿前面)		
22	施灸練習(対人-大腿前面)		
23	刺鍼練習(対人-大腿後面)		
24	施灸練習(対人-大腿後面)		
25	刺鍼練習(対人-前腕前面)		
26	施灸練習(対人-前腕前面)		
27	刺鍼練習(対人-前腕後面)		
28	施灸練習(対人-前腕後面)		
29	刺鍼練習(対人-手、足部)		
30	施灸練習(対人-手、足部)		
31	刺鍼練習(総復習)		
32	刺鍼練習(総復習)		
33	刺鍼練習(総復習)		
34	施灸練習(総復習)		
35	期末試験		
36	期末試験		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法：期末試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10%</p> <p>評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p> <p>※期末試験の受験資格として、前期経過チェック合格を必要とする。なお、前期経過チェック基準に満たない場合は、期末試験に向けて補習を行い、合格相当の技術があると担当教員が判断した者は期末試験の受験を可とする。詳細は授業内にて説明。</p>		
使用テキスト	教科書(はりきゅう実技<基礎編>、経絡経穴概論)		
参考文献	<p>経穴インパクト(株式会社医道の日本社)</p> <p>運動からの図解 経絡・ツボの基本(株式会社マイナビ)</p> <p>はり入門(株式会社医道の日本社)</p>		

科目名	鍼灸実技 I-B		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	実技・実習 1単位	時間数	36時間
科目の概要	施術者としての心構え、身だしなみ、消毒法を含めた衛生上の注意点。基本的な刺鍼方法、施灸方法を習得する。		
科目の目標	消毒法から、施鍼・施灸までの各動作を身体で覚え動けるようになる。 また各施術を安全に効率的かつ適度な刺激を加えられるようする。		
学習の到達目標	人体に対しての施鍼動作(消毒・取穴・前揉捻・刺鍼・抜鍼・後揉捻・消毒)および施灸動作(消毒・取穴・施灸・消毒)をスムーズに行えるようになる。 施鍼において目的の深さに刺鍼できるようになる。 施灸において適切な熱感を与えられるようになる。		
学習方法・学習上の注意	人体に対する施術が主となるので、内出血や火傷などのリスク管理に注意する。 毎回の授業で教員に対して施鍼または施灸をして技術の習得度の確認を行うので集中して練習すること。		
関連科目	はりきゅう理論、経絡経穴概論、経絡経穴実技、解剖学、生理学、東洋医学概論、臨床基礎実習、臨床実習		
持参物	教科書『はりきゅう実技(基礎編)』、鍼灸道具、筆記用具、クリップボード		
講義計画	講義内容		
1	初回OA		
2	刺鍼の種類と実際(直刺、斜刺、横刺)		
3	17手技(単刺・置鍼・管散・細指・雀啄・間歇・屋漏術、刺鍼練習台)		
4	17手技(単刺・置鍼・管散・細指・雀啄・間歇・屋漏術、人体)		
5	17手技(振せん・旋捻・回旋術・随鍼・内調術、刺鍼練習台)		
6	17手技(振せん・旋捻・回旋術・随鍼・内調術、人体)		
7	17手技(乱鍼術・示指打法・鍼尖転移法・刺鍼転向法、刺鍼練習台)		
8	17手技(乱鍼術・示指打法・鍼尖転移法・刺鍼転向法、人体)		
9	灸治療の種類と実際(隔物灸、棒灸、箱灸、台座灸、その他)		
10	灸治療の種類と実際(隔物灸、棒灸、箱灸、台座灸、その他)		
11	特殊鍼法の説明と実際(皮内鍼、円皮鍼)		
12	上肢の経穴への刺鍼		
13	下肢の経穴への刺鍼		
14	期末試験(施鍼)		
15	上肢の経穴への施灸		
16	下肢の経穴への施灸		
17	期末試験(施灸)		
18	評価点検		
成績評価の方法と基準	評価方法:期末試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	教科書(はりきゅう実技<基礎編>、経絡経穴概論)		
参考文献	運動・からだ図解 経絡・ツボの基本(株式会社マイナビ) はり入門(株式会社医道の日本社)		

科目名	鍼灸実技Ⅱ-A		
担当教員	岩村 英明、角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 2単位	時間数	72時間
科目の概要	岩村：頭頸部や体幹部の経穴に対し刺鍼・施灸の練習を行なう。 （講義計画1～20） 角田：四肢や体幹部の経穴に対し中国鍼の刺鍼・灸頭鍼の練習を行なう。 （講義計画21～36）		
科目の目標	1年次で学んだ基本技術を円滑に行えるようにし、かつ、その他の施術方法を学ぶことで3年次の臨床実習の現場に立つことが出来るようにする。		
学習の到達目標	1. 頭部や体幹部に対し、安全に刺鍼・施灸が行えるようになる。 2. 四肢や体幹部に対し、安全に中国鍼の刺鍼・灸頭鍼が行えるようになる。		
学習方法・学習上の注意	四肢や体幹部の経穴について、取穴部位を確認したのち二人または三人一組となって刺鍼、施灸等の練習を行う。体幹部への刺鍼は気胸の恐れがあるため注意する。		
関連科目	はりきゅう理論、経絡経穴概論、経絡経穴実技、解剖学、生理学、東洋医学概論、臨床基礎実習、臨床実習		
持参物	タブレット端末、教科書（経絡経穴概論）、鍼灸道具一式、筆記用具、クリップボード		
講義計画	講義内容		
1	導入、頸部の刺鍼（風池、天柱）		
2～3	肩部の施灸、刺鍼（肩井、天膠、巨骨）		
4～5	背部の施灸、刺鍼（風門、肺俞、心俞）		
6～7	背部の施灸、刺鍼（膈俞、肝俞、脾俞）		
8～9	腰部の施灸、刺鍼（命門、腎俞、志室）		
10～11	腰部の施灸、刺鍼（腰陽関、大腸俞）		
12～13	胸腹部の施灸、刺鍼（中府、天枢）		
14～15	腹部の施灸、刺鍼（巨関、中脘、関元）		
16～20	実技試験		
21	下肢の刺鍼（足三里、豊隆）		
22	下肢灸頭鍼（足三里、豊隆）		
23	下肢の刺鍼（飛揚、跗陽）		
24	下肢灸頭鍼（飛揚、跗陽）		
25	上肢の刺鍼（外関、会宗）		
26	上肢の灸頭鍼（外関、会宗）		
27	上肢の刺鍼（列欠、孔最）		
28	上肢の灸頭鍼（列欠、孔最）		
29	腰部の刺鍼（腎俞、大腸俞）		
30	腰部の灸頭鍼（腎俞、大腸俞）		
31	腹部の刺鍼（関元、中脘、天枢）		
32	腹部の灸頭鍼（関元、中脘、天枢）		
33	実技試験（中国鍼）		
34	実技試験（中国鍼）		
35	実技試験（灸頭鍼）		
36	実技試験（灸頭鍼）		
成績評価の方法と基準	評価方法：実技試験90%、出席状況10% 評価基準：学則に従いA（80点以上）・B（70点以上80点未満）・C（60点以上70点未満）・D（60点未満）とする。		
使用テキスト	はりきゅう実技（基礎編）、経絡経穴概論、配布プリント		
参考文献	経穴インパクト（株式会社医道の日本社） 運動・からだ図解 経絡・ツボの基本（株式会社マイナビ） はり入門（株式会社医道の日本社） 『鍼灸療法技術ガイド』（文光堂）		

科目名	鍼灸実技Ⅱ-B		
担当教員	立川諒	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	後期
単位数	実技・実習 1単位	時間数	36時間
科目の概要	1年時に修得した刺鍼技術を用いて、低周波鍼通電療法を行う。		
科目の目標	1年次で学んだ基本技術を円滑に行えるようにし、かつ、その他の施術方法を学ぶことで3年次の臨床実習の現場に立つことが出来るようにする。		
学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・上下肢筋の起始・停止・作用・支配神経、低周波鍼通電療法の作用・禁忌を覚える。 ・基本的な刺鍼技術を向上させ、低周波鍼通電療法を安全に行えるようにする。 		
学習方法・学習上の注意	危険部位に対する刺鍼を安全に行えるようにする。体幹部への刺鍼は気胸の恐れがあるため注意する。		
関連科目	はりきゅう理論、経絡経穴概論、経絡経穴実技、解剖学、生理学、東洋医学概論、臨床基礎実習、臨床実習		
持参物	鍼実技セット		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション(低周波鍼通電療法について)		
2	上肢(上腕)筋パルス		
3,4	上肢(前腕)筋パルス		
5,6	下肢(大腿部)筋パルス		
7,8	下肢(下腿部)筋パルス		
9,10	体幹部(頸肩部)筋パルス		
11,12	体幹部(腰背部、臀部)筋パルス		
13,14	上肢神経パルス		
15,16	下肢神経パルス		
17	期末試験		
18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法: 期末試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	教科書(はりきゅう実技<基礎編>、解剖学)		
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鍼電極による通電に関するコンピュータシミュレーションの試み(会議録) 木村 友昭, 立川 諒. 全日本鍼灸学会学術大会抄録集71回 Page146(2022.05) 2. Yamamoto, A., Hiro, J., Omura, Y. et al. Laparoscopic removal of an aberrant acupuncture needle in the gluteus that reached the pelvic cavity: a case report. <i>surg case rep</i> 7, 51 (2021). https://doi.org/10.1186/s40792-020-01065-8 3. Al-Sawat A, Lee SJ, Lee GS. Laparoscopic removal of a migrating acupuncture needle from the obturator muscle. <i>Asian J Surg</i>. 2021 Oct;44(10):1330-1331. doi: 10.1016/j.asjsur.2021.06.040. Epub 2021 Jul 30. PMID: 34340898. 4. Zhang GS, Zhang GS, Xu S, et al. Examination of Needle Surface Corrosion in Electroacupuncture. <i>Acupuncture in Medicine</i>. 2018;36(6):367-376. doi:10.1136/acupmed-2017-011542 5. Fujiwara H, Taniguchi K, Takeuchi J, Ikezono E. The influence of low frequency acupuncture on a demand pacemaker. <i>Chest</i>. 1980 Jul;78(1):96-7. doi: 10.1378/chest.78.1.96. PMID: 7471851. 6. Lau EW, Birnie DH, Lemery R, Tang AS, Green MS. Acupuncture triggering inappropriate ICD shocks. <i>Europace</i>. 2005 Jan;7(1):85-6. doi: 10.1016/j.eupc.2004.05.010. PMID: 15670973. 7. Vasilakos DG, Fyntanidou BP. Electroacupuncture on a patient with pacemaker: a case report. <i>Acupunct Med</i>. 2011 Jun;29(2):152-3. doi: 10.1136/aim.2010.003863. Epub 2011 Mar 8. PMID: 21386114. 8. 鍼通電療法の実態とその効果. 徳竹 志司. 日本東洋医学系物理療法学会誌 42(2). 2017. 		

科目名	経絡経穴実技		
担当教員	佐々木 勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 1単位	時間数	36時間
科目の概要	経絡経穴の復習と立体的な認識を深める。		
科目の目標	経絡経穴概論で学んできた経穴を、スムーズに取穴できるようにする。		
学習の到達目標	正穴、五俞穴五要穴を取穴出来るようになる。		
学習方法・学習上の注意	経絡経穴概論で学んだ経穴を流注ごとに分けて取穴していく。		
関連科目	①経絡経穴概論:この科目を基礎とする ②実技各種:刺鍼施灸の基礎知識・基礎技術が必要となる		
持参物	「経絡経穴概論」、必要に応じてプリントを配布します。蛍光ペンを持参して下さい。		
講義計画	講義内容		
1	ガイダンス、①上肢ー下肢の取穴		
2	②上肢ー下肢の取穴		
3	③上肢ー下肢の取穴		
4	④上肢ー下肢の取穴		
5	⑤上肢ー下肢の取穴		
6	⑥上肢ー下肢の取穴		
7	上肢ー下肢の取穴要点まとめ		
8	総まとめと確認		
9	総まとめと確認		
10	⑦上肢ー下肢の取穴		
11	⑧上肢ー下肢の取穴		
12	⑨上肢ー下肢の取穴		
13	⑩上肢ー下肢の取穴		
14	⑪上肢ー下肢の取穴		
15	⑫上肢ー下肢の取穴		
16	上肢ー下肢の取穴要点まとめ		
17	総まとめと確認		
18	総まとめと確認		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験90%、平常点10%(課題・小テスト) 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
参考文献	『新版 経絡経穴概論』:東洋療法学校協会		

科目名	体表解剖基礎実技		
担当教員	岩村 英明、角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 1単位	時間数	36時間
科目の概要	施術する際の基本的な身体の触れ方や体表解剖等々について学習する。また、足関節や手関節、手指など、使用頻度の高い場所のテーピングについても学習する。		
科目の目標	鍼灸臨床の場で、患者を不快にさせない身体の触り方ができるようにする。また施術時に適切な筋や経穴にアプローチできるように体表解剖についての知識・技能も取得する。		
学習の到達目標	相手を不快にさせない身体の触り方(触察方法)を身につける。 体表から触れることのできる指標(ランドマーク)の位置を覚え、的確に捉えることが出来るようになる。		
学習方法・学習上の注意	授業で行った内容はしっかりと復習、練習し、忘れないように努める。		
関連科目	解剖学、各種の実技授業		
持参物	筆記用具、蛍光ペン、タブレット端末		
講義計画	講義内容		
1	触察・体表解剖		
2	触察・体表解剖		
3	触察・体表解剖		
4	触察・体表解剖		
5	触察・体表解剖		
6	触察・体表解剖		
7	触察・体表解剖		
8	試験		
9	試験		
10	テーピング		
11	テーピング		
12	テーピング		
13	テーピング		
14	テーピング		
15	テーピング		
16	テーピング		
17	テーピング		
18	テーピング		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験結果90%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。 D評価の者には再試験を実施する。		
使用テキスト			
参考文献			

科目名	美容スポーツ各種鍼灸		
担当教員	専任教員	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 1単位	時間数	36時間
科目の概要	鍼灸実技Ⅰ・Ⅱで学んだ技術をもとに臨床現場で用いられている技術を学ぶ。		
科目の目標	各分野の治療方法や病態把握の仕方など、同じ鍼灸という領域の中での専門性を知る。		
学習の到達目標	各専門分野の治療法を知り、体験する。		
学習方法・学習上の注意	専門分野のため、使用器具等の扱いに注意し安全に実習を行う。		
関連科目			
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
全18回	<ul style="list-style-type: none"> ・吸玉療法 ・美容鍼 ・運動鍼 ・温灸 ・特殊鍼灸 ・スポーツ鍼灸 ・高齢者に対する鍼灸 ・鍼灸療法の実際 など 		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法：授業態度20%、提出物20%、出席率60%にて総合的に評価をする。</p> <p>評価基準：学則に基づき、A(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト	なし		
参考文献	なし		

※授業の進行状況により、内容を変更する場合があります。

科目名	総合実技		
担当教員	佐々木 勇人	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 1単位	時間数	36時間
科目の概要	これまでに学んできたランドマーク、経絡経穴の取穴の確認を行う。		
科目の目標	経絡経穴概論で学んできた経穴を、スムーズに、かつ正確に取穴できるようにします。		
学習の到達目標	これまで学んできた経穴を熟知し臨床に応用出来るようになると共に、国家試験問題を正確に解答出来るようになる。		
学習方法・学習上の注意	経絡経穴概論で学んだ経穴を各部位ごとに別けて取穴していきます。		
関連科目	経絡経穴概論、経絡経穴実技		
持参物	鍼灸道具、教科書、ノート、筆記用具(他に蛍光ペン)		
講義計画	講義内容		
1	ガイダンス、要穴表(八会穴)他		
2	①上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表(八会穴)		
3	②上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表(四総穴)		
4	③上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表(下合穴)		
5	④上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表(八会穴)		
6	⑤上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表(八総穴)		
7	⑥上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表(五俞穴・五行穴)		
8	まとめと確認		
9	⑦上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表(四総穴)		
10	⑧上肢一下肢の取穴、五俞穴、五要穴、要穴表、奇穴		
11	⑨上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表、奇穴		
12	⑩上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表、奇穴		
13	⑪上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表、奇穴		
14	⑫上肢一下肢、五俞穴、五要穴、要穴表、奇穴		
15	まとめ、頭頸部の穴		
16	まとめと確認		
17	募穴・俞穴、八脈交会穴		
18	頭頸部の穴、要穴表		
成績評価の方法と基準	評価方法:試験90%、平常点(授業内課題・授業内小テスト)10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	新版 経絡経穴概論(医道の日本社)、及びプリントを配布する。		
参考文献	解剖学(医師薬出版株式会社)		

※授業の進行状況により内容を変更することがあります。

科目名	臨床応用実技		
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年生	開講学期	通年
単位数	実技・実習 2単位	時間数	72時間
科目の概要	医学的な知識および診察法によって診察、治療を行う。		
科目の目標	医学的な根拠を持った治療が行えるようになる。		
学習の到達目標	自覚症状および理学的検査における所見から根拠のある治療法を行えるようになる。		
学習方法・学習上の注意	解剖学(筋、骨、神経系)における知識の確認を行い、臨床実習で治療ができるようにする。		
関連科目	解剖学・生理学・リハビリテーション医学・東洋医学臨床論		
持参物	実技道具一式(学校配布のもの)・必要に応じて患部を出せるような服装		
講義計画	講義内容		
1～2	1. 理学的検査とスポーツ鍼灸(理論)		
3～4	2. 理学的検査とスポーツ鍼灸(腰痛)		
5～6	3. 理学的検査とスポーツ鍼灸(膝関節、大腿部)		
7～8	4. 理学的検査とスポーツ鍼灸(肘関節)		
9～10	5. 理学的検査とスポーツ鍼灸(膝関節、大腿部)		
11～12	6. 理学的検査とスポーツ鍼灸(下腿部、足関節)		
13～14	7. 自律神経機能と鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
15～16	8. 自律神経機能と鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
17～18	9. 自律神経機能と鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
19～20	10. 自律神経機能と鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
21～22	11. 自律神経機能と鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
23～24	12. 自律神経機能と鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
25～26	13. 自律神経機能と鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
27～28	14. 自律神経機能と鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
29～30	15. 自律神経機能と鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
31～32	16. 鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
33～34	17. 鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)		
35～36	18. 鍼灸療法(鍼通電刺激、灸頭鍼、単刺、運動鍼)口		
成績評価の方法と基準	評価方法:、出席率および授業態度を含めた評価とする。(出席点:1コマにつき欠席は2点、遅刻/早退は1点減点とする。授業態度:授業中、課題以外の事を実施した場合は、1コマにつき1点減点とする。)評価基準:学則に基づき、A(80点以上)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下)とする。		
使用テキスト	解剖学、生理学、はりきゅう実技、経絡経穴概論		
参考文献	解剖学アトラス		

※授業の進行状況により内容を変更することがあります。

科目名	伝統鍼灸実技 I		
担当教員	五十嵐力	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年生	開講学期	後期
単位数	実技・実習 1単位	時間数	36時間
科目の概要	東洋医学概論 I・II で学習する内容を基に、東洋医学的な診察法を学ぶ。		
科目の目標	診察が行えるように反復練習を通して一連の流れを学習する。		
学習の到達目標	3年次の臨床実習で、診察を行い病態把握が行えるようにする。		
学習方法・学習上の注意	医療過誤、事故に十分注意して行う。 臨床に応用するという学習意識をたえずもって取り組む。		
関連科目	東洋医学概論 I・II、経絡経穴概論		
持参物	実技教科書、筆記用具		
講義計画	講義内容		
1～8	オリエンテーション、触診法		
	脈 診		
	舌 診		
	腹 診(募穴診)		
	経脈の切診		
	背候診(背部腧穴診)		
9～16	一連の診察		
17～18	期末試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験80%、学習意欲(授業態度)10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	プリント配布		
参考文献	東洋医学概論(医道の日本社)、経絡経穴概論(医道の日本社)		

※授業の進行状況により、内容を変更する場合があります。

科目名	伝統鍼灸実技Ⅱ		
担当教員	大槻 健吾	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 2単位	時間数	36時間
科目の概要	東洋医学的治療法を学ぶ		
科目の目標	症状から弁証して配穴、施術を行えるようにする。		
学習の到達目標	症例から問題となる臓腑・経絡を推定することができる。 基本的な配穴を覚え、スムーズな施術ができる。		
学習方法・学習上の注意	症状や疾患から弁証を行うことができるように基本病証の復習を行う。 配穴に必要な基本的な経穴の知識を覚えておく。 施術練習時に実際の患者を想定して言葉遣いや刺鍼・施灸を行う。		
関連科目	東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論		
持参物	鍼灸道具一式、授業プリント、東洋医学臨床論・経絡経穴の教科書		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション、刺鍼施灸練習		
2～5	基本病証に対する配穴・治療		
6～7	関節痛に対する治療		
8～9	頭部・顔面部に対する治療		
10～15	臓腑弁証に対する配穴・治療		
16	筆記試験、実技試験練習		
17～18	実技試験		
成績評価の方法と基準	評価方法：①筆記試験(30%) ②実技試験(60%) ③出席状況・授業態度(10%) 評価基準：学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	東洋医学臨床論(はりきゅう編)、経絡経穴概論、配布プリント		
参考文献	日本鍼灸医学(経絡治療 基礎・応用編)		

※授業の進行状況により、内容を変更する場合があります。

科目名	臨床実習前実技		
担当教員	御書隆之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	後期
単位数	実技・実習 1単位	時間数	36時間
科目の概要	四大疾患を中心に病態把握、鑑別診断、基本的な取穴を学習する。		
科目の目標	3学年で行う臨床実習に必要な基礎を習得する。		
学習の到達目標	四大疾患を中心に疾患の鑑別と病態把握を学習し、3年次の臨床実習の現場に立つことができるようにする。		
学習方法・学習上の注意	二人一組となって検査法・取穴練習を行う。指示された以外の部位への刺鍼・施灸行為は禁止とする。		
関連科目	はりきゅう理論 経絡経穴概論 解剖学 臨床医学総論		
持参物	教科書(はりきゅう実技<基礎編>、経絡経穴概論)、鍼灸道具一式		
講義計画			
1	ガイダンス、肩関節痛の鑑別		
2	肩関節痛の鑑別、肘関節痛の鑑別、手関節痛の鑑別		
3	頸肩腕痛の鑑別		
4	頸肩腕痛の鑑別		
5	頸肩腕痛の鑑別		
6	腰下肢痛の鑑別		
7	腰下肢痛の鑑別		
8	膝関節痛の鑑別		
9	膝関節痛の鑑別		
10	各疾患の鑑別復習		
11	各疾患の鑑別復習・要穴(原・郄・絡)取穴		
12	各疾患の鑑別復習・要穴(原・郄・絡)取穴		
13	各疾患の鑑別復習・要穴(原・郄・絡)取穴		
14	各疾患の鑑別復習・要穴(原・郄・絡)取穴		
15	筆記試験		
16	実技試験		
17	実技試験		
18	実技試験		
成績評価の方法と基準	評価方法:実技試験60%、筆記試験20%、授業態度10%、出席状況10% 評価基準:学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。		
使用テキスト	配布プリント はりきゅう実技<基礎編>(医道の日本社) 新版 経絡経穴概論(医道の日本社)		
参考文献	はりきゅう理論(医道の日本社)		

科目名	臨床基礎実習 I		
担当教員	角田 朋之	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	1年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 1単位	時間数	45時間
科目の概要	臨床実習を行う前に、治療院の準備や運営、問診法や触診法など施術の流れ、物理療法機器の使用法などを学ぶ。		
科目の目標	治療院の実際の現場で、施術を行う前の準備から、施術の流れや施術後の片付け等を覚え、実践を行う。		
学習の到達目標	治療院で働く基本姿勢や基本的な動きができるようになる。		
学習方法・学習上の注意	施術の流れに注意する。		
関連科目	臨床基礎実習 II、臨床実習、実技科目		
持参物	解剖学と生理学の教科書		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション 清掃業務		
2	受付業務		
3	受付業務、電話対応		
4	ベットメイク、タオルワーク、枕ワーク		
5	ベットメイク、タオルワーク、枕ワーク		
6	医療面接		
7	医療面接		
8	医療面接		
9	触察法		
10	触察法		
11	触察法		
12	触察法		
13	ロールプレイ		
12	ロールプレイ		
15	ロールプレイ		
16	ロールプレイ		
17	ロールプレイ		
18	ロールプレイ		
19	ロールプレイ		
20	ロールプレイ		
21	ロールプレイ		
22	ロールプレイ		
23	ロールプレイ		
成績評価の方法と基準	評価方法:、出席率および授業態度を含めた評価とする。(出席点:1コマにつき欠席は2点、遅刻/早退は1点減点とする。授業態度:授業中、課題以外の事を実施した場合は、1コマにつき1点減点とする。) 評価基準:学則に基づき、A(80点以上)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)とする。		
使用テキスト	なし		
参考文献	解剖生理 臨床医学総論		

科目名	臨床基礎実習Ⅱ		
担当教員	岩村英明、五十嵐力	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	2年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 1単位	時間数	45時間
科目の概要	治療院の実際の現場で必要となる能力、知識について学ぶ。		
科目の目標	3年次の臨床実習に向け、患者の状態(病態)をとらえるための能力を養う。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場で求められる態度や患者に対する配慮を身につける。 2. 適切な態度で患者から最低限必要な情報を質問することができるようになる。 3. 患者に不快感を与えることなく触診をすることができるようになる。 4. 触診により患者の状態を正確に捉えることができるようになる。 		
学習方法・学習上の注意	髪や爪など、身だしなみには十分注意を払う。		
関連科目	臨床基礎実習Ⅰ、臨床実習、鍼灸実技、 体表解剖基礎実技、伝統鍼灸実技		
持参物	筆記用具、クリップボード		
講義計画	講義内容		
1～9	<ul style="list-style-type: none"> ・医療面接 ・腰痛の診察 ・腰下肢痛の診察 ・頸上肢痛の診察 ・肩部の診察 ・膝部の診察 ・カルテの書き方(SOAP) 		
11～23	<p>触診</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の陥凹探し ・比較脈診 		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 出欠状況、日常の学習態度、レポートの提出状況で評価を行う。</p> <p>評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト			
参考文献	<p>鍼灸臨床における医療面接(医道の日本社)</p> <p>マンガで身につく! 治療家のための医療面接(医道の日本社)</p> <p>治療家の手の作り方ー反応論・触診学試論ー(六然社)</p> <p>鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック(医道の日本社)</p>		

科目名	臨床実習		
担当教員	岩村英明・大槻健吾・御書隆之 佐々木勇人・角田朋之・五十嵐力・立川諒	実務経験の有無及び経歴	鍼灸師として臨床現場に従事
対象学年	3年	開講学期	通年
単位数	実技・実習 2単位	時間数	90時間
科目の概要	校内の附属臨床施設を使用して行う。実際の患者様の施術を通して今まで学習してきた全ての知識や技術の総まとめを行う。		
科目の目標	基本的臨床能力としての、知識・技能・態度・習慣を身につける。		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に対し、受付や誘導など適切な対応が出来るようになる。 2. 患者に対し、適切に医療面接を行うことが出来るようになる。 3. 患者に対し、必要と思われる検査を適切に実施することが出来るようになる。 4. 医療面接や検査で得た情報から、病態把握や治療方針をたてる事が出来るようになる。 		
学習方法・学習上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習は臨床の現場であるため、毎回の実習での態度は学生としての評価のみではなく、鍼灸業界全体に関わる重要なものであること絶対に忘れないこと。初めて治療院に訪れる患者も多く、この実習での施術者や学生の態度が鍼灸そのもののイメージになることを常に意識すること。 2. 実習中、指導教員の指示に従うことは当然のことだが、分からないことを分からないままにせず、必ず指示を聞いて行動すること。 3. 附属治療院で見聞きた患者の個人情報口外しないこと。また、ソーシャルネットワーク上(ブログ・ツイッター・LINE等)にも絶対に出さないこと。 		
関連科目	解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論、東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論、鍼灸実技、臨床応用実技、伝統鍼灸実技、経絡経穴実技、臨床実習前実技、臨床基礎実習		
持参物	筆記用具、クリップボード、臨床実習ノート		
講義計画	講義内容		
1	オリエンテーション		
2～43	実習		
42～43	症例報告作成		
44～45	症例報告		
成績評価の方法と基準	<p>評価方法: 課題提出50%、学習意欲・授業態度(出席状況を含む)20%、 症例報告評価・外部評価30%</p> <p>評価基準: 学則に従いA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・ C(60点以上70点未満)・D(60点未満)とする。</p>		
使用テキスト			
参考文献			